

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄								備考
計画の区分		大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ 設置者		カッコリホシヅン シラユリカクエン 学校法人 白百合学園								
フリガナ 大学の名称		シラユリジョウダイガク 白百合女子大学（Shirayuri University）								
大学本部の位置		東京都調布市緑ヶ丘1丁目25番地								
大学の目的		本学は、キリスト教、特にカトリシズムの世界観による人格形成を基本理念とし、本学の母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の設立の精神に則り、知性と感性との調和のとれた女性の育成を目的とする。								
新設学部等の目的		本学は1965年に文学部のみの単科大学として開学し、2016年度からは文学部と人間総合学部の2学部による女子教育を行っている。近年の志願者動向および女性を取りまく社会環境の変化などをふまえ、今後も社会からの要請に応え、社会に貢献する人材を輩出し続けるために、教育・研究の質をより良く保つことのできる環境の最適化をすべく、学生入学状況の実態に合わせて収容定員に係る学則変更の届出をするものである。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部	年	人	年次 人	人			年 月 第 年次		
	国語国文学科	4	60 (80)	—	240 (320)	学士 (文学)	文学関係	令和8年4月 第1年次	東京都調布市緑 ヶ丘1丁目 25番地	
	フランス語フランス文学科	4	40 (80)	—	160 (320)	学士 (文学)	文学関係	令和8年4月 第1年次	同上	
	英語英文学科	4	60 (80)	—	240 (320)	学士 (文学)	文学関係	令和8年4月 第1年次	同上	
計										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		該当なし								
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
		科目	科目	科目	科目	単位				

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の 教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	文学部 国語国文学科	10 (10)	1 (3)	1 (0)	0 (0)	12 (13)	0 人 (0)	128 人 (128)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (9)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)		
	小計（a～b）	8 (8)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	2 (2)	0 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (3)		
	計（a～d）	10 (10)	1 (3)	1 (0)	0 (0)	12 (13)		
	文学部 フランス語フランス文学科	10 (4)	1 (8)	0 (0)	0 (0)	11 (12)	0 人 (0)	122 人 (122)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (4)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (9)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (4)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (9)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	3 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (3)		
	計（a～d）	10 (4)	1 (8)	0 (0)	0 (0)	11 (12)		
	文学部 英語英文学科	9 (6)	2 (7)	1 (0)	0 (0)	12 (13)	0 人 (0)	99 人 (99)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (4)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (9)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (4)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	8 (9)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a 又は b に該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間 8 単位以上の授業科目を担当するもの（a、b 又は c に該当する者を除く）	2 (2)	1 (2)	1 (0)	0 (0)	4 (4)		
	計（a～d）	9 (6)	2 (7)	1 (0)	0 (0)	12 (13)		
	計	29 (20)	4 (18)	2 (0)	0 (0)	35 (38)	0 (0)	— (—)

既 設 分	人間総合学部 児童文化学科		7 (4)	3 (5)	1 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	人 (110)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (3)	3 (3)	1 (2)	0 (0)	8 (8)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	4 (3)	3 (3)	1 (2)	0 (0)	8 (8)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	3 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)				
	計（a～d）	7 (4)	3 (5)	1 (2)	0 (0)	11 (11)				
	人間総合学部 発達心理学科		7 (5)	1 (6)	3 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	人 (122)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	1 (4)	2 (0)	0 (0)	8 (8)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (4)	1 (4)	2 (0)	0 (0)	8 (8)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	2 (1)	0 (2)	1 (0)	0 (0)	3 (3)				
	計（a～d）	7 (5)	1 (6)	3 (0)	0 (0)	11 (11)				
	人間総合学部 初等教育学科		11 (10)	1 (5)	3 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	人 (105)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (8)	0 (3)	2 (0)	0 (0)	11 (11)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	9 (8)	0 (3)	2 (0)	0 (0)	11 (11)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	2 (2)	1 (2)	1 (0)	0 (0)	4 (4)				
計（a～d）	11 (10)	1 (5)	3 (0)	0 (0)	15 (15)					
計		25 (19)	5 (16)	7 (2)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	人 (—)		
合 計		54 (39)	9 (34)	9 (2)	0 (0)	72 (75)	0 (0)	人 (—)		
職 種		専 属				その他		計		
事務職員		58 (59)				人 (64)		118 (123)		人
技術職員		0 (1)				0 (0)		0 (1)		
図書館職員		2 (2)				2 (2)		4 (4)		
その他の職員		0 (0)				0 (0)		0 (0)		
指導補助者		2 (2)				0 (0)		2 (2)		
計		62 (64)				62 (66)		124 (130)		

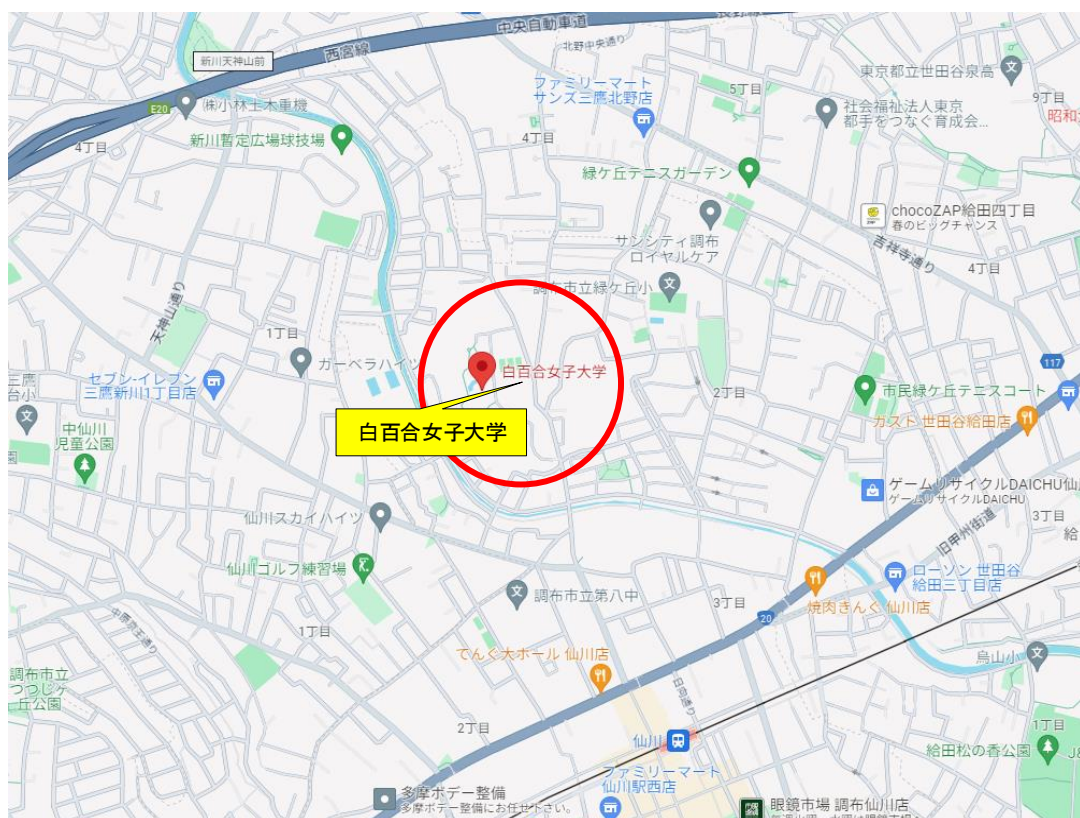
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	51,919.59㎡	－ ㎡	－ ㎡	51,919.59㎡					
	その他	382.49㎡	－ ㎡	－ ㎡	382.49㎡					
	合計	52,302.08㎡	－ ㎡	－ ㎡	52,302.08㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		33,914.39㎡ (33,914.39㎡)	－ ㎡ (ー ㎡)	－ ㎡ (ー ㎡)	33,914.39㎡ (33,914.39㎡)					
教室・教員研究室		教室	室	教員研究室	室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点 標本 点				
		() ()	() ()	() ()	() ()	() ()				
	計	() ()	() ()	() ()	() ()	() ()				
	スポーツ施設等		スポーツ施設 ㎡		講堂 ㎡		厚生補導施設 ㎡			
経費 の見 積り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には 電子ジャー ナル・デー タベースの 整備費(運用 コストを含 む)を含む。 ※学生納付 金は、上が 人間総合学 部発達心理 学科、下が それ以外の 学部学科
		教員1人当たり研究費等		550千円	550千円	550千円	550千円	－ 千円	－ 千円	
		共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	－ 千円	－ 千円	
		図書購入費	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	30,000千円	－ 千円	－ 千円	
		設備購入費	50,000千円	50,000千円	50,000千円	50,000千円	50,000千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当たり 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
				1,410千円	1,380千円	1,380千円	1,380千円	－ 千円	－ 千円	
				1,380千円	1,140千円	1,140千円	1,140千円	－ 千円	－ 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資金運用収入、寄付金、雑収入等						
大学等の名称		白百合女子大学								令和7年度 収容定員減 (△40)
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地	
文学部		年	人	年次 人	人		倍			
国語国文学科		4	80	－	320	学士（文学）	0.77	昭和40年度		
フランス語フランス文学科		4	80	－	320	学士（文学）	0.51	昭和40年度		
英語英文学科		4	80	－	440	学士（文学）	0.47	昭和40年度		
人間総合学部							0.93			
児童文化学科		4	60	－	240	学士（児童文化学）	0.97	平成28年度		
発達心理学科		4	60	－	240	学士（心理学）	1.15	平成28年度		
初等教育学科		4	75	－	300	学士（教育学）	0.72	平成28年度		

既設大学等の状況	文学研究科 博士前期課程・修士課程						0.85		東京都調布市 緑ヶ丘1丁目25番地		
	発達心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	1.25	平成2年度			
	児童文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	0.75	平成2年度			
	国語国文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	0.58	平成6年度			
	フランス語フランス文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	1.08	平成6年度			
	英語英文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	0.33	平成7年度			
	博士後期課程						0.44				
	発達心理学専攻	3	4	—	12	博士（心理学）	0.50	平成4年度			
	児童文学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.44	平成7年度			
	言語・文学専攻	3	5	—	15	博士（文学）	0.40	平成9年度			
大学等の名称		仙台白百合女子大学									※令和5年度より学生募集停止（人間発達学科）
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	開設 年度	所 在 地		
人間学部		年	人	年次 人	人		倍				
人間発達学科		4	—	3年次 —	—	学士（人間科学）	—	平成8年度			
子ども教育学科		4	70	3年次 5	215	学士（人間科学）	0.40	令和5年度			
心理福祉学科		4	65	3年次 5	270	学士（人間科学）	0.65	平成25年度	宮城県仙台市泉区 本田町6番1号		
健康栄養学科 管理栄養専攻		4	80	—	320	学士（人間科学）	0.52	平成14年度			
グローバル・スタディーズ学科		4	60	3年次 5	250	学士（人間科学）	0.52	平成25年度			
附属施設の概要		該当なし									

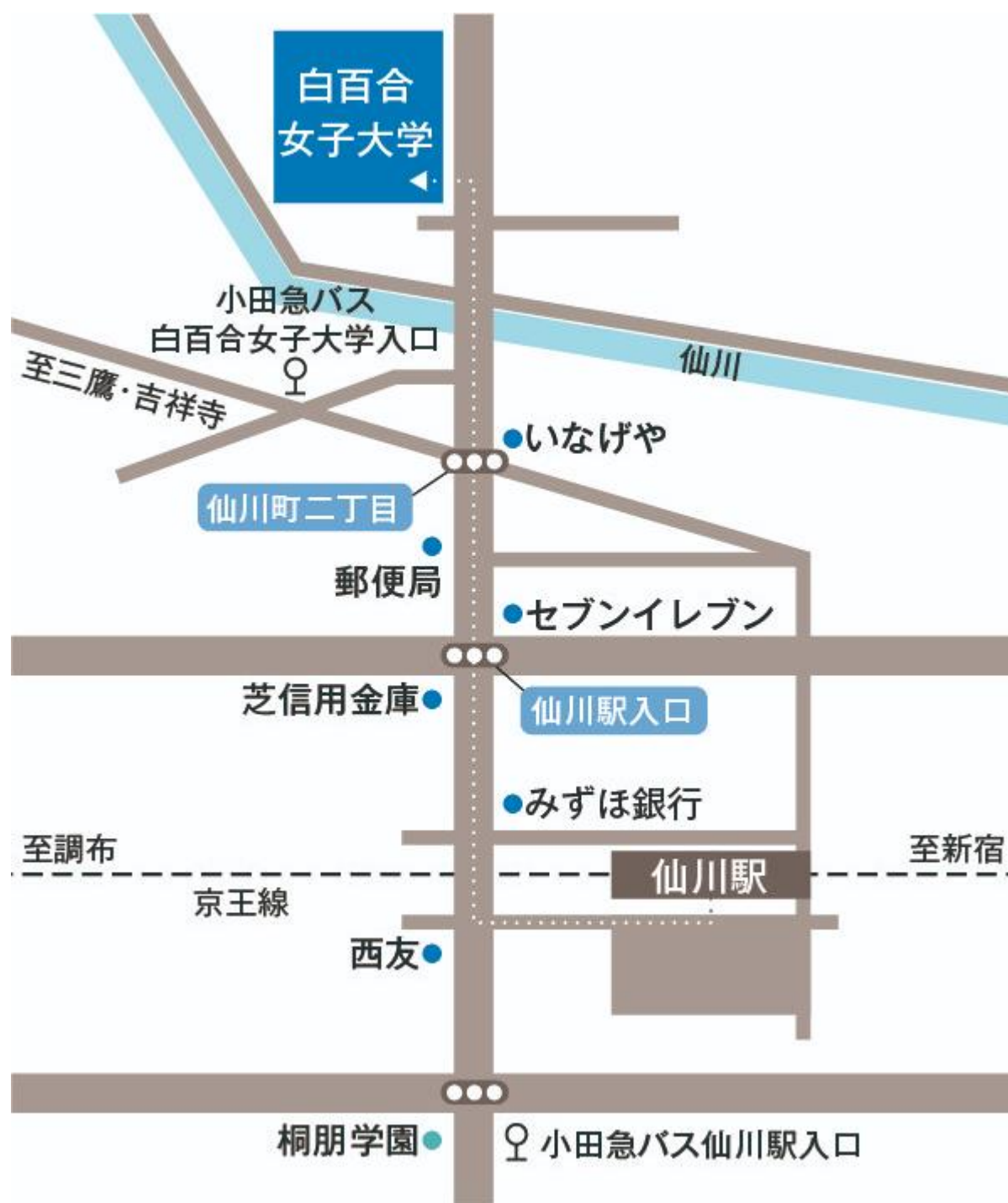
学校法人白百合学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
白百合女子大学				白百合女子大学				
文学部				文学部				
国語国文学科	80	—	320	国語国文学科	<u>60</u>	—	<u>240</u>	定員変更(△20)
フランス語フランス文学科	80	—	320	フランス語フランス文学科	<u>40</u>	—	<u>160</u>	定員変更(△40)
英語英文学科	80	—	320	英語英文学科	<u>60</u>	—	<u>240</u>	定員変更(△20)
人間総合学部				人間総合学部				
児童文化学科	60	—	240	児童文化学科	60	—	240	
発達心理学科	60	—	240	発達心理学科	60	—	240	
初等教育学科	75	—	300	初等教育学科	75	—	300	
計	435	—	1740	計	<u>355</u>	—	<u>1420</u>	
白百合女子大学大学院				白百合女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
発達心理学専攻 (M)	10	—	20	発達心理学専攻 (M)	10	—	20	
児童文学専攻 (M)	6	—	12	児童文学専攻 (M)	6	—	12	
国語国文学専攻 (M)	6	—	12	国語国文学専攻 (M)	6	—	12	
フランス語フランス文学専攻 (M)	6	—	12	フランス語フランス文学専攻 (M)	6	—	12	
英語英文学専攻 (M)	6	—	12	英語英文学専攻 (M)	6	—	12	
発達心理学専攻 (D)	4	—	12	発達心理学専攻 (D)	4	—	12	
児童文学専攻 (D)	3	—	9	児童文学専攻 (D)	3	—	9	
言語・文学専攻 (D)	5	—	15	言語・文学専攻 (D)	5	—	15	
計	46		104	計	46		104	
仙台白百合女子大学				仙台白百合女子大学				
人間学部				人間学部				
子ども教育学科	70	3年次	5	子ども教育学科	70	3年次	5	290
心理福祉学科	65	3年次	5	心理福祉学科	65	3年次	5	270
健康栄養学科管理栄養専攻	80	—	320	健康栄養学科管理栄養専攻	80	—	320	
グローバル・スタディーズ学科	60	3年次	5	グローバル・スタディーズ学科	60	3年次	5	250
計	275	3年次	15	計	275	3年次	15	1130

白百合女子大学の都道府県内における位置関係の図面

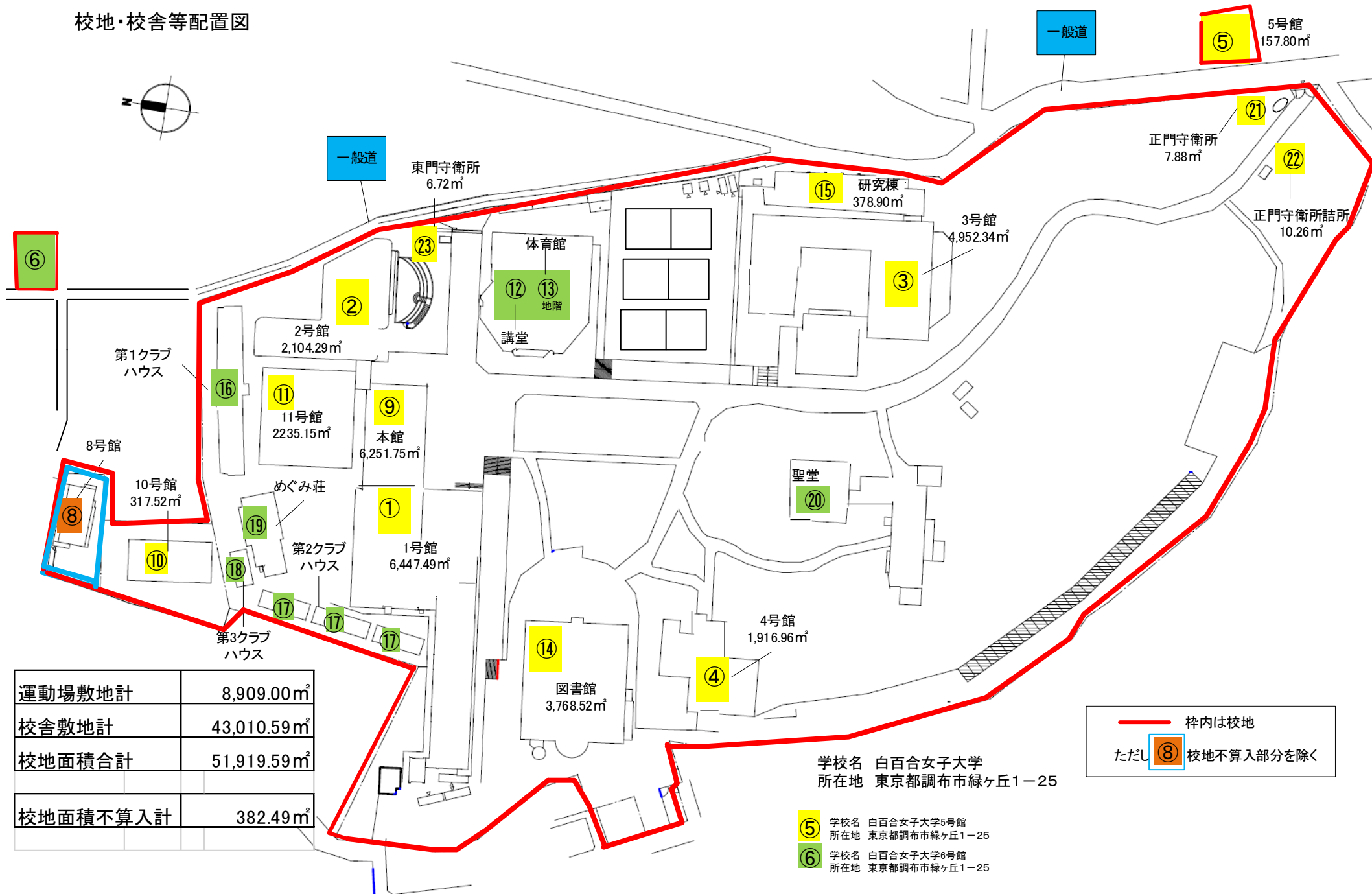


最寄り駅から距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



- 新宿駅より25分、仙川駅下車、徒歩10分
- 地下鉄都営新宿線で笹塚駅乗換、仙川駅下車、徒歩10分
- JR吉祥寺駅(南口、バス 停7番)より30分。
白百合女子大学入口にて 下車、徒歩5分。
- JR三鷹駅(南口、バス 停7番)より30分。
白百合女子大学入口にて 下車、徒歩5分。
- 小田急線成城学園前駅(西口、バス 停1番)より15分。
仙川駅入口にて 下車、徒歩15分。

校地·校舍等配置図



白百合女子大学学則（案）

第1章 総 則

第1条

（建学の精神）

白百合女子大学における教育の基本理念はキリスト教、特にカトリシズムの世界観による人格形成にある。

本学の母体であるシャルトル聖パウロ修道女会の創立の精神に則り、知性と感性との調和のとれた女性の育成をめざす。

（教育目標 一真・善・美一）

真理の探求という知性の絶えざる研磨に加え、人格的自己完成という単独では獲得しえない徳性を、人々への誠実な愛と奉仕の姿勢を身につけることによって可能な限り追求し、自己と自己をとりかこむ一切のものの中に美を見出し、また謙虚さに根ざした畏敬の念を感受してゆくこと、そこに本学の教育目標は置かれている。

校名、校章にも「白百合」の花を選び、清楚、謙虚さの中に気品を保ち、豊かな人間性と広い視野のうえに専門的な知識を備えた自立的女性の育成を、その目標とする。

- 2 本学は、教育研究水準の向上を図り大学の目的および社会的使命を達成するため、自ら点検評価を行う。

第2条 本学に大学院を置く。

- 2 大学院の学則は別に定める。

第3条 本学に文学部および人間総合学部を置く。

- 2 文学部に国語国文学科、フランス語フランス文学科および英語英文学科を置く。
- 3 人間総合学部に児童文化学科、発達心理学科および初等教育学科を置く。

第3条の2 文学部は、専攻する言語・文学・文化の研究を通して、高いコミュニケーション能力を身につけ、自文化と他文化にわたる豊かな教養をもとに、多様な場面で他者と対話し、協働できる人材の育成を目的とする。

- 2 国語国文学科は、日本の言葉や文学を見つめ直し、調査・研究する力を身につけることを通して、豊かな教養と柔軟な発想をもった人材の育成を目的とする。
- 3 フランス語フランス文学科は、フランス語圏の言語・文化・文学の総合的な学習を通して、高度な言語運用能力と異文化理解に立脚した教養を身につけた人材の育成を目的とする。
- 4 英語英文学科は、英語圏の言語・文化・文学の研究を通して、海外だけでなく自国の文化をも再評価できる広い視野を培い、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。

第3条の3 人間総合学部は、児童自身が享受し参加する文化に対する深い理解を基礎に、その心身の発達を生涯に渡って支える視野と高度な専門性をもって、広く社会に貢献する人材の育成を目的とする。

- 2 児童文化学科は、児童の環境を形成する児童文学・児童文化の研究と絵本・童話などの創作を通して、想像力と創造力をもった人材の育成を目的とする。
- 3 発達心理学科は、人間の生涯発達とその臨床的な対応について、発達心理学の立場から研究・教育を行い、幅広い分野で専門的な発達支援を行う人材の育成を目的とする。
- 4 初等教育学科は、乳幼児期・児童期の子どもの発達とその環境となる児童文化の理解に基づき、子どもの成長を支える熱意と豊かな学びを導く力量を備えた教師・保育者の育成を目的とする。

第4条 修業年限は4年とする。

第5条 在学年数は8年を超えることができない。

第6条 学生定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文 学 部	国 語 国 文 学 科	60人	240人
	フランス語フランス文学科	40人	160人
	英 語 英 文 学 科	60人	240人
人間総合学部	児 童 文 化 学 科	60人	240人
	発 達 心 理 学 科	60人	240人
	初 等 教 育 学 科	75人	300人

第7条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、事務職員その他必要な教職員を置く。

2 教職員組織に関する規程は、別に定める。

第8条 本学に教授会を置く。

2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

1 学生の入学および卒業

2 学位の授与

3 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

3 教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下この項において「学長等」という）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

4 前二項に規定するもののほか、教授会に関する規程は、別に定める。

5 文学部、人間総合学部には、学部教授会を置く。学部教授会には、前項までに規定するもののほか、教授会に関する規程を準用する。

第9条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 1学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から 9月30日まで

後学期 10月1日から 3月31日まで

第10条 休業日は次のとおりとする。

1 日曜日

2 国の祝日に関する法律に規定する休日

3 本学の創立記念日 6月29日

4 夏期休業 7月21日から9月30日まで

5 冬期休業 12月21日から翌年1月7日まで

6 春期休業 3月20日から3月31日まで

学長は必要がある場合、休業日もしくは休業期間を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

第2章 入学・休学・復学・退学・除籍・再入学・編入学・転学部・転学科・留学

第11条 入学の時期は学年の始めとする。

第12条 本学へ入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する女子であることとする。

1 高等学校または中等教育学校を卒業した者。

2 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）

3 学校教育法施行規則の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。（次の各号の一に該当する者）

- ①外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- ②文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- ③文部科学大臣の指定した者。
- ④高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者。
- ⑤その他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者。

第 13 条 本学へ入学を志願する者は、入学願書およびその他別に定める書類に所定の入学検定料を添えて、所定の期日内に願出しなければならない。

第 14 条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

第 15 条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書およびその他別に定める書類を提出するとともに、所定の学納金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを不備なく完了したと認めた者に対し入学を許可する。

3 第 1 項の提出書類に虚偽または不正があった場合には、入学の許可を取り消すことがある。

第 16 条 学生が病気のため引き続き 2 か月以上休養を要するとき、その他特別の事由があると認められるときは、学長の許可を得て休学することができる。ただし、休学の期間が次年度にわたる時は、学年の始めに改めて願出しなければならない。

2 病気、その他の事由により、通学することが適当でないと認められる学生に対して、学長は休学を命ずることができる。

第 17 条 休学期間は、4 年を超えることができない。

2 休学期間は修業年限および在学年数の中に、これを算入しない。

第 18 条 休学期間内にその事由がなくなったときは、学長の許可を得て、復学することができる。

第 19 条 退学しようとする者は、その理由を記載し、保証人連署のうえ、学長に願出しなければならない。

第 20 条 他の学校へ入学または転学しようとする者は、その旨を願出で、学長の許可を得なければならない。

第 21 条 次の各号の一つに該当する場合は、除籍する。

1 在学期間が所定の年数を超える者。

2 学納金を滞納し、催告を受けても納付しない者。

第 22 条 本学を退学、または除籍された者が、再び入学を志願したときは、選考のうえ、再入学を認めることができる。

第 23 条 本学の 1 学科を卒業した者が、再び他の学科へ入学を志願したときは、選考のうえ、これを認めることができる。

第 24 条 次の各号の一つに該当する者で本学への編入学を志望する者には、選考のうえ、相当年次に入学を許可することがある。

1 大学を卒業した者。

2 短期大学または高等専門学校を卒業した者。

3 他大学の 2 年次までの課程を修了し、62 単位以上を修得して退学した者。

4 専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、課程の修了に必要な総授業時間数が 1,700 時間以上であるもの）を修了した者。

5 高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者。

第 24 条の 2 本学内で他学部の学科または同一学部内の他学科へ転学部または転学科を志望する者には、

選考のうえ、これを許可することがある。

第 25 条 本学学生にして、外国の大学（外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、またはこれに相当する教育研究機関をいう。以下同じ。）で、一定以上学修することを志望する者には、本人の教育上有益であると認められた場合にかぎり、これを許可することがある。

- 2 前項の制度を留学という。
- 3 留学に関する事項は、別に定める。

第 3 章 授業科目、履修方法および学習の評価

第 26 条 文学部の授業科目を、宗教学科目、共通科目、外国語科目および学科専門科目に区分する。

- 2 人間総合学部の人間総合学部の授業科目を、宗教学科目、共通科目、外国語科目、学部共通科目および学科専門科目に区分する。

第 26 条の 2 本学における授業科目および単位数は、別表 1 のとおりとする。

第 26 条の 3 各学部における履修方法および卒業要件単位数は次のとおりとする。

文学部

学 科	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
科目区分			
宗教学科目	8		
共通科目	20		
外国語科目	8		
学科専門科目	62		
科目区分を特定しない自由選択単位	26		
卒業要件単位	124		

人間総合学部

学 科	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
科目区分			
宗教学科目	8	8	8
共通科目	12	12	12
外国語科目	8	8	8
学部共通科目	8	8	8
学科専門科目	70	78	88
科目区分を特定しない自由選択単位	18	10	—
卒業要件単位	124		

科目区分を特定しない自由選択単位については、別表 1 に掲げる科目のうち、履修可能な科目から選択し、履修するものとする。

第 27 条 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- 1 講義および演習については、15 時間から 30 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 2 実験、実習および実技については、30 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

- 3 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 4 卒業論文等については、学修の成果を評価するものとし、4単位から8単位の範囲で所定の単位を与える。

第27条の2 本学が教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところによって、前条に規定する授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第28条 学生は、その学年に履修しようとする科目を所定の期日までに届け出なければならない。届け出をしない科目は履修することができない。

第29条 科目を履修し、試験その他の適切な方法により、合格と評価された者に対して、所定の単位を与える。

第29条の2 本学が教育上有益と認めるときは、本学と協定のあるまたは認定する他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第25条の規定により学生が外国の大学に留学する場合に準用する。

3 前項に定める単位認定に関する事項は、別に定める。

第29条の3 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他 文部科学大臣が別に定める学修を、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項に定める単位認定に関する事項は、別に定める。

第29条の4 本学が教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学または短期大学において履修した 授業科目について修得した単位を、入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育研究上有益と認めるときは、学生が入学する前に行った前条に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、30単位を超えないものとする。

第29条の5 第27条の2、第29条の2、第29条の3および第29条の4により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。

第29条の6 削除

第30条 卒業年次に限り、第29条に定める方法により不合格と評価された科目について、評価を一時保留として、再度の教育効果の測定のための試験を行うことができる。

2 前項の試験を再試験という。再試験については別に定める。

第31条 各科目につき、出席した時間数が出席すべき時間数の3分の2に満たない者は、第29条に定める方法による評価の対象とはならず、その科目修了の認定を受けることはできない。

第32条 削除

第33条 成績は、S・A・B・C・Fの5段階とし、Fは不合格となる。

第4章 教職課程、司書・司書教諭課程、保育士養成課程、登録日本語教員養成課程

第34条 教育職員の免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法に定める科目を履修し、その単位を修得しなければならない。

2 本学の各学科において取得できる教育職員免許状の種類および免許教科は、次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類および免許教科
文 学 部	国 語 国 文 学 科	中学校教諭 一種免許状 国語

		高等学校教諭 一種免許状 国語
	フランス語フランス文学科	中学校教諭 一種免許状 外国語（フランス語） 高等学校教諭 一種免許状 外国語（フランス語）
	英語英文学科	中学校教諭 一種免許状 外国語（英語） 高等学校教諭 一種免許状 外国語（英語）
人間総合学部	初等教育学科	幼稚園教諭 一種免許状 小学校教諭 一種免許状

第 34 条の 2 司書・司書教諭となる資格を取得しようとする者は、図書館法および学校図書館法に定める科目をそれぞれ履修し、その単位を修得しなければならない。

第 34 条の 3 保育士となる資格を取得しようとする者は、児童福祉法施行令および児童福祉法施行規則に定める科目をそれぞれ履修し、その単位を修得しなければならない。なお、詳細は指定保育士養成施設である人間総合学部初等教育学科において別に定める。

第 34 条の 4 登録日本語教員養成課程を修了しようとする者は、日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律施行規則に定める科目を履修し、その単位を修得しなければならない。なお、履修方法に関する詳細は別に定める。

第 5 章 賞 罰

第 35 条 次の各号の一つに該当する者に対し、学長はこれを賞することがある。

- 1 成績の優秀な者。
- 2 学生自治の向上に尽力した者。
- 3 学生の範となる行為をした者。

第 36 条 学業成績が優秀かつ品行方正な者で、経済的に学業の継続が困難となった者に対し、学長はこれを奨学生とし、奨学金を給与または貸与することがある。奨学金規程は別に定める。

第 37 条 本学学生にして本学の教育の方針にそむき、学生の本分を怠り、または成業の見込のない者に対し、学長は退学、停学または訓告の懲戒を加える。ただし、退学は、次の各号の一つに該当する者に対して行う。

- 1 性行不良で改善の見込がないと認められる者。
- 2 学業劣等で成業の見込がないと認められる者。
- 3 正当な理由がなくて出席常でない者。
- 4 学校の秩序を乱しその他学生としての本分に反した者。

第 6 章 卒業および学士の学位

第 38 条 第 4 条に規定する年限以上在学し、各学科の定める授業科目および単位数を修得した者に学位記を授与する。

第 38 条の 2 卒業の時期は、学年末とする。ただし、前学期の終了日までに前条に規定する要件を満たした場合は、これを前学期終了時とすることができる。

第 39 条 本学において授与される学士の学位は次のとおりとする。

文学部	国語国文学科	学士（文学）
	フランス語フランス文学科	学士（文学）
	英語英文学科	学士（文学）
人間総合学部	児童文化学科	学士（児童文化学）

発達心理学科	学士（心理学）
初等教育学科	学士（教育学）

第7章 科目等履修生

- 第40条 本学の授業科目の履修を希望する者があるときは、科目等履修生として履修を許可することがある。
- 2 科目等履修生は検定料および受講料を期日までに納めなければならない。
 - 3 科目等履修生の規程については別に定める。

第8章 学納金

- 第41条 本学の学納金は、別表2のとおりとする。
- 第42条 やむを得ない事情があると認められた場合は、学納金の全部またはその一部を免除することがある。
- 第43条 学納金に関する必要な事項は、別に定める。
- 第44条 削除

第9章 附属施設

- 第45条 本学に白百合女子大学図書館を置く。
- 2 図書館の規程は別に定める。
- 第46条 本学に次の研究施設を置く。
- 1 白百合女子大学発達臨床センター
 - 2 白百合女子大学児童文化研究センター
 - 3 白百合女子大学言語・文学研究センター
 - 4 白百合女子大学キリスト教文化研究所
 - 5 白百合女子大学生涯発達研究教育センター
- 2 研究施設の規程は別に定める。

第10章 教育・研究支援センター

- 第47条 本学学生のため、ウェルネスセンターを置く。
- 2 ウェルネスセンターに関する事項は、別に定める。
- 第48条 本学の教育・研究の成果を地域・社会に還元し、本学の教育的活動の社会的展開を図るため、社会連携センターを置く。
- 2 社会連携センターに関する事項は別に定める。
- 第49条 本学の建学の精神に基づく教育理念の周知・実現のため、ルイ・ショーヴェセンターを置く。
- 2 ルイ・ショーヴェセンターに関する事項は別に定める。

付則 本学則は、昭和40年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和42年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和43年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和47年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和51年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和54年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和55年4月1日より施行する。
 本学則は、昭和56年4月1日より施行する。

本学則は、昭和 57 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、昭和 58 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、昭和 60 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 2 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 4 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 5 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 6 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 7 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 8 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 9 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、平成 10 年 4 月 1 日より施行する。
本学則は、1999 年（平成 11 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2000 年（平成 12 年） 4 月 1 日より施行する。
※ただし、第 25 条（2007 年 4 月 1 日からは第 26 条）の改正については、2000 年度入学者より適用する。
本学則は、2001 年（平成 13 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2004 年（平成 16 年） 4 月 1 日より施行する。
※ただし、第 5 条の改正については、2004 年度入学者より適用する。
本学則は、2005 年（平成 17 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2007 年（平成 19 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2008 年（平成 20 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2008 年（平成 20 年） 6 月 1 日より施行する。
本学則は、2009 年（平成 21 年） 1 月 1 日より施行する。
本学則は、2011 年（平成 23 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2012 年（平成 24 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 26 条の規定は、2012 年度入学者から適用するものとし、2011 年度以前の入学者については、なお従前の例による。
本学則は、2013 年（平成 25 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 26 条の 2 別表については、2013 年度入学者から適用する。
本学則は、2014 年（平成 26 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 26 条、第 26 条の 2 別表、第 29 条、第 29 条の 2、第 29 条の 3、第 29 条の 4 および第 29 条の 5 の規定は、2014 年度入学者から適用する。
本学則は、2015 年（平成 27 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 33 条の規定および第 26 条の 2 別表については、2015 年度入学者から適用する。
本学則は、2016 年（平成 28 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 3 条、第 3 条の 3、第 6 条、第 26 条、第 26 条の 2、第 26 条の 2 別表 1、第 26 条の 3、第 34 条、第 39 条および第 41 条別表 2 の規定は、2016 年度入学者から適用する。文学部児童文化学科は、改正後の第 3 条の規定に関わらず、当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間存続するものとする。
本学則は、2017 年（平成 29 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 26 条の 2 別表 1 の規定は、2017 年度入学者から適用する。
本学則は、2018 年（平成 30 年） 4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 26 条の 2 別表 1 のフランス語フランス文学科専門科目および児童文化学科専門科目については、2018 年度入学者から適用する。
本学則は、2019 年（平成 31 年） 4 月 1 日より施行する。
本学則は、2019 年（令和元年） 7 月 1 日より施行する。
本学則は、2019 年（令和元年）10 月 1 日より施行する。
本学則は、2020 年（令和 2 年） 4 月 1 日より施行する。

本学則は、2021 年（令和 3 年）4 月 1 日より施行する。

本学則は、2022 年（令和 4 年）4 月 1 日より施行する。

本学則は、2023 年（令和 5 年）4 月 1 日より施行する。

本学則は、2024 年（令和 6 年）4 月 1 日より施行する。ただし、改正後の第 41 条別表 2 の規定については、2025 年度入学者から適用するものとする。

本学則は、2025 年（令和 7 年）4 月 1 日より施行する。改正後の第 6 条、第 26 条の 3 については、2025 年度入学者から適用するものとする。改正後の第 41 条別表 2 の私費留学生に関する規定については、2026 年度入学者より適用するものとする。

本学則は、2026 年（令和 8 年）4 月 1 日より施行する。

第 26 条の 2 別表 1

宗 教 学 科 目

必 選 区 分	科 目 名	単 位 数
必 修	キリスト教学入門Ⅰ	1
	キリスト教学入門Ⅱ	1
	キリスト教の人間論Ⅰ	1
	キリスト教の人間論Ⅱ	1
選 択 必 修	キリスト教と社会・文化 AⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 AⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 BⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 BⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 CⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 CⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 DⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 DⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 EⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 EⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 FⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 FⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 GⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 GⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 HⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 HⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 JⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 JⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 KⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 KⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 LⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 LⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 MⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 MⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 NⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 NⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 PⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 PⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 QⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 QⅡ	2
	キリスト教と社会・文化 RⅠ	2
	キリスト教と社会・文化 RⅡ	2
	キリスト教学演習 AⅠ	2
	キリスト教学演習 AⅡ	2
	キリスト教学演習 BⅠ	2
	キリスト教学演習 BⅡ	2

	キリスト教学演習CⅠ	2
	キリスト教学演習CⅡ	2
	キリスト教学演習DⅠ	2
	キリスト教学演習DⅡ	2
	キリスト教学総合演習	2

共通科目

必選区分	科目名	単位数
必修	ライフ・リテラシー入門	2
	はじめてのデータサイエンス	2
選択必修	ライフ・リテラシー応用	2
	美しい日本語を話す（基礎）	2
	美しい日本語を話す（実践）	2
	教養としての日本語	2
	ロジックを学ぶ	2
	信頼づくりの作法	2
	コミュニケーションの作法	2
	ライフ・マネージメント	2
	身体を考える	2
	文化と人間Ⅰ	2
	文化と人間Ⅱ	2
	哲学Ⅰ	2
	哲学Ⅱ	2
	現代思想Ⅰ	2
	社会と倫理Ⅰ	2
	神話の世界A	2
	西洋史Ⅰ	2
	西洋史Ⅱ	2
	日本史概説Ⅰ	2
	日本史概説Ⅱ	2
	歴史からみた現代	2
	歴史の中の音楽	2
	政治学A	2
	憲法	2
	法とは何か	2
	ジェンダー基礎論	2
	家族社会学	2
	ワークライフ論	2
	女性と人権	2
	女性と法	2
	子どもの権利と国際社会	2
	社会福祉と私たち	2
	国際協力論A	2
	インターンシップA	1

	インターンシップ B	2
	観光文化論	2
	数と形の世界 A	2
	数と形の世界 B	2
	自然科学の世界 A	2
	自然科学の世界 B	2
	地球と宇宙を知るための科学Ⅰ	2
	地球と宇宙を知るための科学Ⅱ	2
	生活の中にみる科学と技術Ⅰ	2
	生活の中にみる科学と技術Ⅱ	2
	食と環境	2
	経済学	2
	報道に見る子どもと家族	2
	国際政治と社会課題	2
	女性と起業	2
	デザイン思考	2
	ボランティア論	2
	地域連携実践演習 A	2
	地域連携実践演習 B	2
	教養セミナー（人文）	2
	教養セミナー（自然） A	2
	教養セミナー（自然） B	2
	家族政策	2
	スポーツ・身体運動実習 A	1
	スポーツ・身体運動実習 B	1
	スポーツ・身体運動実習 C	1
	スポーツ・身体運動実習 D	1
	スポーツ科学概論	1
	ICT ベーシック A	2
	ICT ベーシック B	2
	Web デザインとマルチメディア	2
	プログラミング A	2
	プログラミング B	2
	データ分析演習 A	2
	データ分析演習 B	2
	コンピュータ概論	2
	IT 実務演習	2
	情報ネットワークとセキュリティ	2
	データサイエンス演習	2

外国語科目

区分	科目名	単位数
外国語 科目群	総合英語Ⅰ	1
	総合英語Ⅱ	1

	総合英語Ⅲ	1
	総合英語Ⅳ	1
	英語コミュニケーションⅠ	1
	英語コミュニケーションⅡ	1
	英語コミュニケーションⅢ	1
	英語コミュニケーションⅣ	1
	フランス語AⅠ	1
	フランス語AⅡ	1
	フランス語AⅢ	1
	フランス語AⅣ	1
	フランス語BⅠ	1
	フランス語BⅡ	1
	フランス語BⅢ	1
	フランス語BⅣ	1
	ドイツ語AⅠ	1
	ドイツ語AⅡ	1
	ドイツ語AⅢ	1
	ドイツ語AⅣ	1
	ドイツ語BⅠ	1
	ドイツ語BⅡ	1
	ドイツ語BⅢ	1
	ドイツ語BⅣ	1
	中国語AⅠ	1
	中国語AⅡ	1
	中国語AⅢ	1
	中国語AⅣ	1
	中国語BⅠ	1
	中国語BⅡ	1
	中国語BⅢ	1
	中国語BⅣ	1
	韓国語AⅠ	1
	韓国語AⅡ	1
	韓国語AⅢ	1
	韓国語AⅣ	1
	韓国語BⅠ	1
	韓国語BⅡ	1
	韓国語BⅢ	1
	韓国語BⅣ	1
	選択フランス語Ⅰ	1
	選択フランス語Ⅱ	1
	選択フランス語Ⅲ	1
	選択フランス語Ⅳ	1
	選択中国語Ⅰ	2
	選択中国語Ⅱ	2

	選択中国語Ⅲ	1
	選択中国語Ⅳ	1
	選択韓国語Ⅰ	2
	選択韓国語Ⅱ	2
	選択韓国語Ⅲ	1
	選択韓国語Ⅳ	1
	海外研修（英語圏）A	2
	海外研修（英語圏）B	2
	海外研修（フランス語圏）A	2
	海外研修（フランス語圏）B	2
	海外研修（中国語圏）	2
	海外研修（韓国）	2
	オンライン海外研修（英語圏）A	2
	オンライン海外研修（英語圏）B	2
	オンライン海外研修（フランス語圏）	2
グローバル 科目群	EBCⅠ	2
	EBCⅡ	2
	リーダーシップ入門	2
	リーダーシップ応用	2
	ビジネスの基礎知識	2
	ビジネススキル	2
	物語力ワークショップ	2
	ビジネス・マーケティングA	2
	ビジネス・マーケティングB	2
	英語メディアで学ぶビジネス	2
	英語で考えるSDGs	2
	自己表現の技術と知識	2
	海外企業実地研修準備講座	2
	海外企業実地研修	2
	海外文化共創研修	2
	ホスピタリティの英語Ⅰ	2
	ホスピタリティマネジメント概論	2
	ホスピタリティマネジメント演習	2
	ホスピタリティの英語Ⅱ	2
	ホスピタリティマネジメント特講A	2
	ホスピタリティマネジメント特講B	2
	ホスピタリティインターンシップ研修	2
	海外ホスピタリティ研修	2
	舞台芸術実践演習	2

国語国文学科専門科目

必選区分	科目名	単位数
必修	基礎演習（古典）Ⅰ	1
	基礎演習（古典）Ⅱ	1
	基礎演習（近代）Ⅰ	1
	基礎演習（近代）Ⅱ	1
	基礎演習（変体仮名）	1
	基礎演習（漢文）A	1
	基礎演習（漢文）B	1
	基礎演習（日本語）	1
	国語国文学入門	1
	基礎講読A	2
	基礎講読B	2
	国語学概論Ⅰ	2
	国語学概論Ⅱ	2
	文学史A	2
	文学史B	2
	文学史C	2
	総合研究	2
	テーマ別研究Ⅰ	2
	テーマ別研究Ⅱ	2
	テーマ別研究Ⅲ	2
	テーマ別研究Ⅳ	2
	キャリア研究	2
	卒業論文	4
選択必修 Ⅰ	上代文学演習AⅠ	2
	上代文学演習AⅡ	2
	中古文学演習AⅠ	2
	中古文学演習AⅡ	2
	中古文学演習BⅠ	2
	中古文学演習BⅡ	2
	中世文学演習AⅠ	2
	中世文学演習AⅡ	2
	中世文学演習BⅠ	2
	中世文学演習BⅡ	2
	近世文学演習AⅠ	2
	近世文学演習AⅡ	2
	近世文学演習BⅠ	2
	近世文学演習BⅡ	2
	近代文学演習AⅠ	2
	近代文学演習AⅡ	2
	近代文学演習BⅠ	2
	近代文学演習BⅡ	2

	近代文学演習 C I	2
	近代文学演習 C II	2
	近代文学演習 D I	2
	近代文学演習 D II	2
	近代文学演習 E I	2
	近代文学演習 E II	2
	近代文学演習 F I	2
	近代文学演習 F II	2
	国語学演習 A I	2
	国語学演習 A II	2
	国語学演習 B I	2
	国語学演習 B II	2
	国語学演習 C I	2
	国語学演習 C II	2
選択必修 II	上代文学講義 A I	2
	上代文学講義 A II	2
	中古文学講義 A I	2
	中古文学講義 A II	2
	中古文学講義 B I	2
	中古文学講義 B II	2
	中世文学講義 A I	2
	中世文学講義 A II	2
	中世文学講義 B I	2
	中世文学講義 B II	2
	近世文学講義 A I	2
	近世文学講義 A II	2
	近代文学講義 A I	2
	近代文学講義 A II	2
	近代文学講義 B I	2
	近代文学講義 B II	2
	近代文学講義 C I	2
	近代文学講義 C II	2
	国語学講義 A I	2
	国語学講義 A II	2
	国語学講義 B I	2
	国語学講義 B II	2
選択	国語国文学特講（表現学） I	2
	国語国文学特講（表現学） II	2
	国語国文学特講（民俗学） I	2
	国語国文学特講（民俗学） II	2
	国語国文学特講（演劇） I	2
	国語国文学特講（演劇） II	2
	書道	1
	書道 II	2

	日本中世史Ⅰ	2
	日本中世史Ⅱ	2
	日本近代史Ⅰ	2
	日本近代史Ⅱ	2
	現代語文法Ⅰ	2
	現代語文法Ⅱ	2
	第二言語習得	2
	日本語教育教授法Ⅰ	2
	日本語教育教授法Ⅱ	2
	日本語教育研究	2
	日本語教育実習	2
	対照言語学	2
	漢文学講義Ⅰ	2
	漢文学講義Ⅱ	2
	中国文学講義Ⅰ	2
	中国文学講義Ⅱ	2
	国語科教育法ⅠA	2
	国語科教育法ⅠB	2
	国語科教育法特講A	2
	国語科教育法特講B	2
	総合日本語ⅠA	2
	総合日本語ⅠB	2
	総合日本語ⅡA	2
	総合日本語ⅡB	2
	異文化とコミュニケーション	2
	言語と社会	2
	方言学	2
	接触場面研究	2
	言語学講義Ⅰ	2
	言語学講義Ⅱ	2
	日本語史A	2
	日本語史B	2
	デジタル文学入門演習	2
	文芸創作演習	2

フランス語フランス文学科専門科目

必選区分	科目名	単位数
必修	1年フランス語ⅠA	2
	1年フランス語ⅡA	2
	1年フランス語ⅠB	2
	1年フランス語ⅡB	2
	1年フランス語ⅠC	2
	1年フランス語ⅡC	2
	1年フランス語ⅠD	1

	1年フランス語ⅡD	1
	2年フランス語ⅠA	2
	2年フランス語ⅡA	2
	2年フランス語ⅠB	2
	2年フランス語ⅡB	2
	2年フランス語ⅠC	1
	2年フランス語ⅡC	1
	フランス語圏文化概論Ⅰ	2
	フランス語圏文化概論Ⅱ	2
	フランス文学概論	2
	専門ゼミ準備研究	2
	キャリア研究	2
	専門ゼミⅠ	2
	専門ゼミⅡ	2
選択必修Ⅰ	フランス語発展総合ⅠA	2
	フランス語発展総合ⅠB	2
	フランス語発展総合ⅡA	2
	フランス語発展総合ⅡB	2
	フランス語発展読解Ⅰ	2
	フランス語発展読解Ⅱ	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅠA	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅠB	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅠC	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅠD	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅡA	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅡB	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅡC	2
	フランス芸術・文学・歴史演習ⅡD	2
	フランス社会・生活文化演習ⅠA	2
	フランス社会・生活文化演習ⅠB	2
	フランス社会・生活文化演習ⅠC	2
	フランス社会・生活文化演習ⅠD	2
	フランス社会・生活文化演習ⅡA	2
	フランス社会・生活文化演習ⅡB	2
	フランス社会・生活文化演習ⅡC	2
	フランス社会・生活文化演習ⅡD	2
選択必修Ⅱ	フランス語上級実践研究A	2
	フランス語上級実践研究B	2
	フランス語上級実践研究C	2
	フランス語上級実践研究D	2
	資格のためのフランス語A	2
	資格のためのフランス語B	2
	資格のためのフランス語C	2
	フランス語アトリエA	2

	資格のためのフランス語D	2
	資格のためのフランス語E	2
	資格のためのフランス語F	2
	フランス語アトリエB	2
	フランス芸術・文学・歴史研究A	2
	フランス芸術・文学・歴史研究B	2
	フランス芸術・文学・歴史研究C	2
	フランス芸術・文学・歴史研究D	2
	フランス芸術・文学・歴史研究E	2
	フランス芸術・文学・歴史研究F	2
	フランス芸術・文学・歴史研究G	2
	フランス芸術・文学・歴史研究H	2
	フランス芸術・文学・歴史研究I	2
	フランス芸術・文学・歴史研究J	2
	フランス社会・生活文化研究A	2
	フランス社会・生活文化研究B	2
	フランス社会・生活文化研究C	2
	フランス社会・生活文化研究D	2
	フランス社会・生活文化研究E	2
	フランス社会・生活文化研究F	2
	フランス社会・生活文化研究G	2
	フランス社会・生活文化研究H	2
	フランス社会・生活文化研究I	2
	フランス社会・生活文化研究J	2
選択	フランス語実践研究A	2
	フランス語実践研究B	2
	フランス語実践研究C	2
	フランス語実践研究D	2
	フランス語実践研究E	2
	フランス語実践研究F	2
	仏語科教育法 I A	2
	仏語科教育法 I B	2
	仏語科教育法特講A	2
	仏語科教育法特講B	2
	フランス語教育実践研究A	2
	フランス語教育実践研究B	2
	卒業論文	4
	フランス語・文化入門演習	1

英語英文学科専門科目

必選区分	科目名	単位数
必修	英語読解 I A	2
	英語読解 I B	2

	英語表現ⅠA	2
	英語表現ⅠB	2
	Integrated English LearningⅠA	2
	Integrated English LearningⅠB	2
	英語読解ⅡA	2
	英語読解ⅡB	2
	英語表現ⅡA	2
	英語表現ⅡB	2
	Integrated English LearningⅡA	2
	Integrated English LearningⅡB	2
	1年セミナーA	2
	1年セミナーB	2
	2年セミナーA	2
	2年セミナーB	2
	3年セミナーⅠ	2
	3年セミナーⅡ	2
	4年セミナーⅠ	2
	4年セミナーⅡ	2
	キャリア研究	2
	卒業論文	4
選択必修	イギリス文学史A	2
	イギリス文学史B	2
	イギリス文化史Ⅰ	2
	イギリス文化史Ⅱ	2
	異文化理解	2
	アメリカ文学史Ⅰ	2
	アメリカ文学史Ⅱ	2
	アメリカ文化概論Ⅰ	2
	アメリカ文化概論Ⅱ	2
	英語圏文学	2
	英語史Ⅰ	2
	英語史Ⅱ	2
	英語学概論Ⅰ	2
	英語学概論Ⅱ	2
	コミュニケーション概論Ⅰ	2
	コミュニケーション概論Ⅱ	2
	Journalism EnglishⅠ	2
	Journalism EnglishⅡ	2
	Japanese Culture A	2
	Japanese Culture B	2
	East Asian Studies A	2
	East Asian Studies B	2
	英語教師のための英文法Ⅰ	2
	英語教師のための英文法Ⅱ	2

	英語科教育法ⅠA	2
	英語科教育法ⅠB	2
	英語科教育法特講A	2
	英語科教育法特講B	2
選択	TOEIC 入門	2
	TOEIC 初級	2
	TOEIC 中級A	2
	TOEIC 中級B	2
	TOEIC 上級A	2
	TOEIC 上級B	2
	TOEIC S & W	2
	英日翻訳演習Ⅰ	2
	英日翻訳演習Ⅱ	2
	児童英語教育法	2
	英語教育の理論と実践Ⅰ	2
	英語教育の理論と実践Ⅱ	2
	言語習得論Ⅰ	2
	言語習得論Ⅱ	2
	英語音声学Ⅰ	2
	英語音声学Ⅱ	2

人間総合学部共通科目

区分	科目名	単位数
選択必修	子どものイメージ	2
	子どもとファンタジー	2
	子どもと社会	2
	学校と発達	2
	家庭の教育・地域の教育	2
	子どもと福祉	2
	子育て支援論	2
	現代社会と生涯発達	2
	ジェンダーと社会	2

児童文化学科専門科目

区分	科目名	単位数
必修	児童文学入門A	2
	児童文学入門B	2
	児童文学史・日本Ⅰ	2
	児童文学史・日本Ⅱ	2
	児童文化入門A	2
	児童文化入門B	2
	児童文学史・英語圏Ⅰ	2
	児童文学史・英語圏Ⅱ	2
	基礎演習A	2

	基礎演習 B	2
	演習	4
	卒業論文	8
	キャリア研究	2
選択必修	映像制作 I	2
	映像制作 II	2
	キャラクター文化研究	2
	ストーリーテリング研究 I	2
	ストーリーテリング研究 II	2
	ストーリーテリング研究 III	2
	わらべうた研究	2
	マザーグース研究	2
	絵本制作 A I	2
	絵本制作 A II	2
	絵本制作 B I	2
	絵本制作 B II	2
	絵本制作 C I	2
	絵本制作 C II	2
	編集研究	2
	出版演習 I	2
	出版演習 II	2
	アニメーション制作 A	2
	アニメーション制作 B	2
	児童文学・日本 A	2
	児童文学・日本 B	2
	児童文学・ドイツ A	2
	児童文学・ドイツ B	2
	児童文学・イギリス A	2
	児童文学・イギリス B	2
	児童文学・フランス A	2
	児童文学・フランス B	2
	児童文学・アメリカ A	2
	児童文学・アメリカ B	2
	児童文学・カナダ	2
	児童文学・北欧	2
	児童文学・韓国	2
	YA 文学	2
	おもちゃ論 A	2
	おもちゃ論 B	2
	キャラクター論	2
	マンガ論 A	2
	マンガ論 B	2
	アニメ論	2
	絵本文化論 A	2

	絵本文化論 B	2
	サブカルチャー論	2
	人形文化論 A	2
	人形文化論 B	2
	創作演習 A	2
	創作演習 B I	2
	創作演習 B II	2
	翻訳演習 I	2
	翻訳演習 II	2
	伝承文学	2
	ネオ・ファンタジー A	2
	ネオ・ファンタジー B	2
	児童文化・紙芝居	2
	児童文化・民俗と子ども	2
	児童文化・子ども論	2
	絵本論	2
	幼年文学	2
	ライトノベル論	2
	少女マンガ論	2

発達心理学科専門科目

必選区分		科目名	単位数
必修		心理学概論 A	2
		心理学概論 B	2
		発達心理学基礎演習 A	2
		発達心理学基礎演習 B	2
		心理学統計法 I A	2
		臨床心理学概論	2
		発達心理学概論 A	2
		発達心理学概論 B	2
		発達臨床心理学概論	2
		心理学実験 I	4
		心理学実験 II	4
		心理学統計法 I B	2
		心理学統計法 II	2
		論文講読基礎演習	2
		英語論文講読演習	2
		キャリア研究	2
		心理学研究法	2
		心理学専門演習	2
		卒業論文	8
選択 必修 科目	特 講	知覚・認知心理学	2
		感情・人格心理学	2
		社会・集団・家族心理学	2

	科目	教育・学校心理学	2
		発達心理学特講A	2
		発達心理学特講B	2
		精神疾患とその治療	2
		障害者・障害児心理学	2
		臨床心理学特講A	2
		臨床心理学特講B	2
	演習科目	発達心理学演習A	2
		発達心理学演習B	2
		発達心理学演習C	2
		発達心理学演習D	2
		発達心理学演習E	2
		発達心理学演習F	2
		発達心理学演習G	2
		発達心理学演習H	2
		心理的アセスメントA	2
		心理的アセスメントB	2
	選択科目	児童文化・民俗と子ども	2
		児童文化・子ども論	2
		公認心理師の職責	2
		学習・言語心理学	2
		神経・生理心理学	2
		心理学的支援法	2
		健康・医療心理学	2
		福祉心理学	2
		司法・犯罪心理学	2
		産業・組織心理学	2
		人体の構造と機能及び疾病	2
		関係行政論	2
		心理実習	2
		心理演習	2

初等教育学科専門科目

区分	科目名	単位数
必修	初等教育基礎演習A	2
	初等教育基礎演習B	2
	初等教育演習Ⅰ	2
	初等教育演習Ⅱ	2
	キャリア研究	2
	教育原理	2
	教育心理学	2
	教育の制度と経営（幼・小）	2

	教育方法（ICT 活用の理論と実践を含む。）	2
	特別な支援を要する子どもの理解と支援	2
	教育相談（幼・小）	2
	卒業研究	4
選択必修	国語	2
	社会	2
	算数	2
	理科	2
	生活	2
	音楽	2
	図画工作	2
	家庭	2
	体育	2
	小学校外国語（英語）	2
	音楽演習（器楽）	2
	音楽演習（合唱）	2
	図画工作演習（造形・描画）	2
	体育演習（体づくり・体操）	2
	教育実習（幼・小）事前事後指導	1
	教育実習（幼・小）	4
	領域健康	1
	領域人間関係	1
	領域環境	1
	領域言葉	1
	領域表現	1
	保育内容総論	2
	保育内容演習（健康）	2
	保育内容演習（人間関係）	2
	保育内容演習（環境）	2
	保育内容演習（言葉）	2
	保育内容演習（表現）	2
	保育者論	2
	保育カリキュラム論	2
	幼児理解	2
	保育・教職実践演習	2
	保育原理	2
	子ども家庭福祉Ⅰ	2
	保育の心理学	2
	子ども家庭支援論	2
	社会的養護Ⅰ	2
	社会福祉	2
	子ども家庭福祉Ⅱ	2
	子どもの保健	2
	子どもの健康と安全	2

子どもの食と栄養	2
乳児保育Ⅰ	2
乳児保育Ⅱ	2
子ども家庭支援の心理学	2
子育て支援	2
社会的養護Ⅱ	2
保育体験Ⅰ	1
保育体験Ⅱ A	1
保育体験Ⅱ B	1
保育実習Ⅰ	4
保育実習指導Ⅰ A	1
保育実習指導Ⅰ B	1
保育実習Ⅱ	2
保育実習指導Ⅱ	1
保育実習Ⅲ	2
保育実習指導Ⅲ	1
初等国語科指導法	2
初等社会科指導法	2
初等算数科指導法	2
初等理科指導法	2
初等生活科指導法	2
初等音楽科指導法	2
初等図画工作科指導法	2
初等家庭科指導法	2
初等体育科指導法	2
初等外国語（英語）指導法	2
教職論（小）	2
教育課程論（小）	2
道德教育（小）	2
総合的な学習の時間の指導法（小）	2
特別活動（小）	2
生徒指導・進路指導（小）	2
教職実践演習（小）	2
教育体験Ⅰ	1
教育体験Ⅱ A	1
教育体験Ⅱ B	1
教育体験Ⅲ A	1
教育体験Ⅲ B	1
学級経営論	2
児童文化・子ども論	2
おもちゃ論 A	2
絵本文化論 A	2
絵本文化論 B	2

	心理学概論 A	2
	心理学概論 B	2
	発達心理学概論 A	2
	発達心理学概論 B	2
	発達臨床心理学概論	2
	障害者・障害児心理学	2
	統計データの理解と活用	2
	学校臨床心理学	2
	学習指導法演習（国語）	2
選択	学校経営と学校図書館	2
	学校図書館メディアの構成	2
	学習指導と学校図書館	2
	読書と豊かな人間性	2
	情報メディアの活用	2

教職に関する科目

科目名	単位数
国語科教育法Ⅱ	2
仏語科教育法Ⅱ	2
英語科教育法Ⅱ	2
教育原理（中・高）	2
教職論（中・高）	2
教育の制度と経営（中・高）	2
教育心理学（中・高）	2
特別支援教育概論（中・高）	2
教育課程論（中・高）	2
道徳教育（中）	2
総合的な学習・探究の時間の指導法（中・高）	2
特別活動（中・高）	2
教育方法（ICT 活用の理論と実践を含む。）（中・高）	2
生徒指導・進路指導（中・高）	2
教育相談（中・高）	2
教育実習 A（中・高）	5
教育実習 B（中・高）	3
教職実践演習（中・高）	2
教育体験Ⅰ（中・高）	2
教育体験Ⅱ（中・高）	2

司書に関する科目

科目名	単位数
生涯学習概論	2
図書館情報学概論	2
図書館制度・経営論	2

図書館情報技術論	2
図書館サービス概論	2
情報サービス論	2
児童サービス論	2
情報サービス演習Ⅰ	2
情報サービス演習Ⅱ	2
図書館情報資源概論	2
情報資源組織論	2
情報資源組織演習（目録）	2
情報資源組織演習（分類）	2
図書館基礎特論	2
図書館サービス特論（学校）	2
図書館情報資源特論	2
図書・図書館史	2
図書館施設論	2
図書館総合演習	2
図書館実習	3

司書教諭に関する科目

科目名	単位数
学校経営と学校図書館	2
学校図書館メディアの構成	2
学習指導と学校図書館	2
読書と豊かな人間性	2
情報メディアの活用	2

第41条 別表2：学納金

1. 本学の学納金は次のとおりである。

科 目	金 額	備 考
入 学 検 定 料	共通テスト利用選抜（前期・後期） 15,000円	共通テスト利用選抜（前期・後期）併願の場合は別に定める。
	共通テスト利用選抜（前期・後期）以外 35,000円	一般選抜併願の場合は別に定める。
入 学 金	240,000円	入学時のみ
授 業 料	740,000円	
施 設 設 備 費	300,000円	
維 持 費	100,000円	
心理学実験実習費	30,000円	人間総合学部発達心理学科のみ

2. シャルトル聖パウロ修道女会の会員（志願者を含む）に対して、学納金を免除することができる。
3. 同一法人による編入学者の入学金は、2分の1に減額する。

4. 再入学者の入学金は、2 分の 1 に減額する。ただし、退学もしくは除籍後 10 年以上を経た者は対象外とする。
5. 2026 年度（令和 8 年度）から私費外国人留学生（正規）に対し、授業料を 2 分の 1 に減額する。減額分は、後期授業料より差し引くものとする。ただし、学生の本分にもとる行為をなした場合は、減免措置を取り消す。

変更事項を記載した書類

変更の事由 収容定員の変更を行うため

変 更 点 入学定員及び収容定員の変更（第6条関係）

白百合女子大学学則改正案 [新旧対照表]

(下線は改正部分)

改 正 案				現 行			
第6条 学生定員は次のとおりとする。				第6条 学生定員は次のとおりとする。			
学部	学 科	入学定員	収容定員	学部	学 科	入学定員	収容定員
文学部	国語国文学科	<u>60</u> 人	<u>240</u> 人	文学部	国語国文学科	<u>80</u> 人	<u>320</u> 人
	フランス語 フランス文学科	<u>40</u> 人	<u>160</u> 人		フランス語 フランス文学科	<u>80</u> 人	<u>320</u> 人
	英語英文学科	<u>60</u> 人	<u>240</u> 人		英語英文学科	<u>80</u> 人	<u>320</u> 人
人間総合学部	児童文化学科	60人	240人	人間総合学部	児童文化学科	60人	240人
	発達心理学科	60人	240人		発達心理学科	60人	240人
	初等教育学科	75人	300人		初等教育学科	75人	300人
付則 <u>本学則は、2026 年（令和 8 年） 4 月 1 日より施行する。</u>							

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容	・ ・ ・ ・ 2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性	・ ・ ・ ・ 2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	・ ・ ・ ・ 5
（ア）教育課程の変更内容	・ ・ ・ ・ 5
（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容	・ ・ ・ ・ 7
（ウ）教員組織の変更内容	・ ・ ・ ・ 9
（エ）施設・設備の変更内容	・ ・ ・ ・ 9

学則の変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

本学は、1965（昭和40）年、4年制文学部のみの単科大学として開設され、国語国文学科、フランス語フランス文学科、英語英文学科及び児童文化学科（児童文学・文化専攻、発達心理学専攻）の4学科が設置された。2016（平成28）年4月、文学部児童文化学科を人間総合学部に変更し、児童文化学科の2専攻（児童文学・文化、発達心理学）を、児童文化、発達心理、初等教育の3学科に再編した。2020（令和2）年4月、大学全体の収容定員の総数1,900名の増減を伴わない収容定員の変更の届出を行い、文学部国語国文学科収容定員400名を320名、フランス語フランス文学科収容定員400名を320名とし、英語英文学科収容定員400名を480名とし、文学部全体の収容定員を1,200名から1,120名に80名減少させ、人間総合学部児童文化学科収容定員200名を240名、発達心理学科収容定員200名を240名、初等教育学科収容定員300名は変更せず、人間総合学部の収容定員を700名から780名に80名増加させた。2024（令和6）年5月、文学部英語英文学科の収容定員を480名から320名に変更し、大学全体の収容定員数を1,900名から1,740名に削減する届出を行った。

今回の収容定員変更では、文学部国語国文学科、英語英文学科の収容定員をそれぞれ320名から240名、フランス語フランス文学科の収容定員を320名から160名とし、文学部の収容定員を960名から640名に削減し、大学全体の収容定員を1,740名から1,420名とし、文学部各学科の入学定員及び収容定員を下表のとおりとする。

【各学科の入学定員及び収容定員】

変 更 後				現 行			
学部学科		入学定員	収容定員	学部学科		入学定員	収容定員
文学部	国語国文学科	60 名	240 名	文学部	国語国文学科	80 名	320 名
	フランス語フランス文学科	40 名	160 名		フランス語フランス文学科	80 名	320 名
	英語英文学科	60 名	240 名		英語英文学科	80 名	320 名
人間総合学部	児童文化学科	60 名	240 名	人間総合学部	児童文化学科	60 名	240 名
	発達心理学科	60 名	240 名		発達心理学科	60 名	240 名
	初等教育学科	75 名	300 名		初等教育学科	75 名	300 名
計		355 名	1,420 名	計		435 名	1,740 名

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

（本学の沿革）

本学の設置者である学校法人白百合学園は、17世紀末にフランスの一寒村に生まれたシャルトル聖パウロ修道女会をその設立母体としている。同修道女会は、世界各国で活発な教育・福祉事業を行っているが、我が国においても、1881（明治14）年に東京神田に学校を開設し、現在では、学校法人白百合学園として姉妹法人とともに、全国に幼稚園から大学ま

で、女子教育のための学校を設置している。この内本学は、1946（昭和21）年に東京九段に開設された白百合女子専門学校を前身とし、1950（昭和25）年に白百合短期大学となり、1965（昭和40）年に校地を現在の調布市緑ヶ丘に移転し、4年制大学として開設された。

本学の建学の精神は、シャルトル聖パウロ修道女会の精神、カトリシズムの世界観による人格形成を教育の基本理念のもと、知性と感性との調和のとれた女性の育成を教育目標としている。具体的な教育目標は、学問的専門性によって裏づけられた広い視野と深い教養と社会に貢献しうる総合能力を身につけた自立的な女性の育成である。

本学は当初、国文学科、仏文学科、英文学科の3学科からなる文学部の単科大学として設立されたが、1985（昭和60）年に児童文化学科が増設された。1990（平成2）年には、児童文化学科を基礎としてより高度な教育・研究のため大学院文学研究科（発達心理学専攻及び児童文学専攻）が、1992（平成4）年には発達心理学専攻（博士課程）が設置された。

1994（平成6）年には大学院文学研究科に、国語国文学専攻およびフランス語フランス文学専攻を増設した。また、文学部の学びの潮流を反映し、国文学科を国語国文学科に、仏文学科をフランス語フランス文学科に、英文学科を英語英文学科に名称変更し、文学・語学の両方向を軸とする教育体制を打ち立てた。

1995（平成7）年には、児童文学専攻（博士課程）および英語英文学専攻（修士課程）を増設、1997（平成9）年には、国際的・学際的な視野に立った専門的能力を磨くため、国語国文学・フランス語フランス文学・英語英文学の各領域を横断的に統合した言語・文学専攻（博士課程）を増設した。ここに至り、本学大学院は、発達心理学、児童文学、国語国文学、フランス語フランス文学、英語英文学の修士課程・博士課程を擁する、総合的な高等教育機関となった。

1997（平成9）年、児童文化学科は児童文学・文化専攻と発達心理学専攻に分けられた。また、本学には、中学校・高等学校の教員免許状取得のための教職課程（国語、フランス語、英語）が設置されていたが、1999（平成11）年には発達心理学専攻が保育士養成校として認可された。2005（平成17）年には、児童文学・文化専攻に小学校・幼稚園教諭の養成を目的とした初等教職課程が開設された。こうして本学は、全学校種の教員養成及び保育士養成に取り組んで来た。

2016（平成28）年には、社会的要請が増し続ける教育・保育・心の問題に関する教育・研究をさらに発展させるため、文学部児童文化学科を人間総合学部へ改組して、児童文化、発達心理、初等教育の3学科に再編、従来2専攻に分置されていた幼稚園・小学校教職課程と保育士の養成は初等教育学科に統合され、連携をより強めたのである。

（学内外の背景と学則変更の必要性）

学内外の状況から本学における学則変更（収容定員変更）の必要性について、以下3点を中心に述べる。

（1）18歳人口と大学進学者数の減少¹及び女子の大学進学者数の減少と進学先の多様化

日本における18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、2022年は約112万人まで減少した。今後の予測によると18歳人口は、2035年には初めて100万人を割っ

て約96万人となり、さらに2040年には約82万人にまで減少する。

一方、大学進学者数は2022年に約64万人であり、大学進学率は上昇している。しかしながら、2026年以降、大学進学率が上昇したとしても、2040年の大学入学者数は約51万人と予測される。18歳人口については、2017年に120万人であったものが、2040年には88万人となり、2017年の74%まで減少する。また大学進学者数は、2017年には63万人であったが、2040年には51万人となり、2017年の80%にまで減少する。

このような18歳人口の減少は、他大学同様、本学における受験者数及び入学者数減少の大きな要因である。本学は、すでに2020（令和2）年、2016～2019（平成28～31）年度入試の志願者動向と学科設置以来の志願者募集状況の変化を検討し、大学全体の収容定員総数の増減を伴わない収容定員の変更により、文学部国語国文学科及びフランス語フランス文学科の収容定員を減じ、英語英文学科の収容定員を増やすことで、入学者の確保を図ったところである。しかしながら、新型コロナウイルスの影響により、英語英文学科及びフランス語フランス文学科の入学者が減少し、特に英語英文学科の入学者数の減少は顕著であったことから、2025（令和7）年度から収容定員削減を行った。

他方で、女子の大学進学率は男子に比べ上昇幅が大きく、2012年から2022年の間で約7.6ポイント上昇し、大学入学者数は約2.6万人増加している。しかしながら、前述したように、今後18歳人口減少に伴い、女子の入学者数も減少する。さらに、女子の共学志向が加速するとともに、女子が社会科学系等の学部学科を選択するなど進学先の多様化の影響により、本学文学部3学科への進学希望者の減少が続いている。

（2）文科省の高等教育政策

文部科学省は、中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（2018年11月26日）²において、今後の高等教育の在り方について、次のような指針を明示している。

まず、多様な学生の受け入れの促進である。これからの大学は、18歳で入学する日本人を主な対象として想定する従来のモデルから脱却し、社会人や留学生を積極的に受け入れる体質に転換することである。すなわち、リカレント教育の実施、留学生交流の推進など、高等教育の国際展開が必要だとされる。本学においても、社会人や留学生の受け入れについて、計画的に実施しているところであるが、学生数増加のための手段としては功を奏していない。

次に、多様で柔軟な教育プログラムの実現である。そのためには、文理横断型などの学修の幅を広げる教育を可能にするような、時代の変化に応じた迅速かつ柔軟なプログラム編成が求められる。具体的には、学位プログラムを中心とした大学制度の導入、複数の大学等の人的・物的資源の共有、ICTを活用した教育の促進などである。小規模の女子大である本学は、その機動性を活かし、アセスメントPROGの導入、文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定を受けた科目「はじめてのデータサイエンス」の必修化、グローバルビジネスプログラムやホスピタリティ・マネジメントプログラムの全学教育への移行など、多様で柔軟な教育プログラムに取り組んでいる。このような取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、2022年以降に具体化されたところであり、入学者獲得への波及はま

だ見られない。

また、「私立大学等経費補助金に関する主な答申等³」、「2023年度財務省予算執行調査（結果）（2023年6月）⁴」によれば、補助の要件として定員規模適正化に向けた具体的な対応策の策定を求める等、補助金の配分を見直すべきとされている。したがって、補助金配分が、入学定員未充足の状態が続く私立大学には厳しくなることが予測される。

さらに、2025（令和7）年2月21日、中央教育審議会は「我が国の『知の総和』の向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」において、「今後の高等教育の目指すべき姿」を「我が国の『知の総和』の向上」とし、高等教育政策の目的として「質の向上、規模の適正化、アクセスの確保」を掲げている⁵。とくに、この答申の「設置者別の役割・機能」において、私立大学に対する「規模適正化の推進（設置認可厳格化、再編・統合、縮小、撤退）」を求めていることから、本学における収容定員確保は喫緊の最重要課題である。

（3）大学基準協会による第3期認証評価の受審結果からの是正勧告

本学は、2024（令和6）年度、大学基準協会による第3期認証評価を受審した結果、「学生の受け入れ」の「学部の変員管理」について是正勧告を受けている。その内容は、過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、文学部で0.87、同フランス語フランス文学科で0.89、英語英文学科で0.75と低く、収容定員に対する在籍学生数比率についても、文学部で0.82、同フランス語フランス文学科0.83、英語英文学科で0.71と低いことから、学部の定員管理を徹底することである。したがって、本学は早急に、当該是正勧告に対応することが求められる。

以上の観点から、一定数の入学希望者がいることを踏まえ、規模を縮小し適切な定員管理に努めたい。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

（国語国文学科）

本学科は、2026年に入学定員を80名から60名に減らすことを予定している。2025年度と比べて開講科目の変更はなく、1年次の導入教育から4年次の卒業論文に至るまでの専門科目における学びの流れや教育の質は維持される。

必修科目を中心とした教育内容の流れは以下の通りである。

1年次：「基礎演習（古典Ⅰ・Ⅱ）」「基礎演習（近代Ⅰ・Ⅱ）」「基礎演習（日本語）」「基礎演習（変体仮名）」「基礎演習（漢文）」により少人数のクラスで、国語国文学分野の基礎を学び、同時に、基幹教員によるオムニバス講義形式の「国語国文学入門」で高校から大学への学びの橋渡し、および、専門分野の広がり学ぶ。

2年次：各人の興味に合わせて、演習・講義の科目等を受講し、専門分野の学びを深めるとともに、基幹教員によるオムニバス講義形式の「総合研究」によって、3・4年次のゼミに相当する「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の選択の準備を行う。

3年次：各人の興味に合わせて演習・講義の科目等を受講し、専門分野の学びを深めるとともに、ゼミに相当する「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ」で自分自身の学びのテーマを設定し、研究方法や研究内容を習得する。

4年次：各人の興味に合わせて演習・講義の科目を受講し、専門分野の学びを深めるとともに、ゼミに相当する「テーマ別研究Ⅲ・Ⅳ」で自分自身のテーマの学びをさらに深め、「卒業論文」の執筆につなげる。

(フランス語フランス文学科)

2026年度に入学定員を80名から40名に減らすことを予定している。2025年度にカリキュラムを抜本的に見直したことで、教育の質の向上を図ったばかりである。

2026年度に収容定員を削減したとしても、カリキュラムをさらに大きく組みかえるのではなく、学修を効果的にサポートする体制を構築することが、その最大の目的となる。フランス語必修科目は2年次まで(1年次4科目、2年次3科目)とした上でクラス数を削減し、同一科目担当教員間の意思疎通をさらに密にする一方、学生一人ひとりにあわせた教育を展開する。上級フランス語やフランス語の実践力を身に着けたい者には、「フランス語スペシャリストコース」や、文学部プログラムである「フランス語特別強化プログラム」など、意欲や関心に応じて柔軟な履修をするように指導する。また、多様な文化科目や文学部プログラム履修を希望する学生にも、履修の自由度が高まる編成としている。基幹教員がアドバイザーとして担当する一人あたりの学生数も減少するため、フランス語必修科目やコース指定の演習科目、専門ゼミなどの重要科目を直接指導するだけでなく、学生一人ひとりの意欲や特性にあった履修指導もさらにきめ細かく行う予定である。

2025年度から実施したカリキュラムの見直しや、また2026年度以降に実施予定のクラス数の削減は、1年次の導入教育から4年次の専門ゼミおよび(選択者に関しては)卒業論文に至るまでの専門科目における「学びの流れ」を維持した上で、学生一人ひとりに合わせた指導に対応するものである。1年次および2年次必修の「フランス語圏文化概論」「フランス文学概論」では、本学科の学生全員が身につけるべきアカデミックスキルを教えるものだが、どの教員が担当しても同じ教育目標を達成できるように、各科目の担当に基幹教員を含めるようにし、その監督のもとで共通シラバスにもとづく指導を行う。また、2年次の後期には「専門ゼミ準備研究」を全員が履修し、各担当教員の専門分野や専門ゼミの内容を紹介する。3年次から4年次にかけて2年間連続で履修する「専門ゼミ」では、原則として同じ基幹教員のもとで高度に専門的な知識と技能を学び、4年間にわたる学修の集大成となるゼミ論または卒業論文を執筆・完成させる。

フランス語の必修科目に関しては、1年次・2年次必修の「フランス語A・B・C・D」において、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能の基礎をバランスよく向上させる。また、2年次以降には、実用フランス語技能検定試験などの対策講座である「資格のためのフランス語」、フランス語スピーチ作成を目指す「フランス語アトリエ」、3年次以降はオンラインを用いた国際協働授業(COIL型授業)などを含む「フランス語実践研究」などの選択必修科目や選択科目を履修することも可能である。

正課外の学修支援としては、現行と同じく「ネイティブ・スピーカー・ティーチング・ア

シスタント（NS-TA）」および大学院生TAをフランス語フランス文学科研究室（事務室）に配置する。学生は、フランス語母語話者のスタッフと随時面談が可能であり、フランス語の日常会話を練習することはもちろん、授業の課題についてフランス語面のアドバイスを受けることも可能である。また、留学の前後や授業内外で行われる国際交流（ニューカレドニアとの交流授業や文通プロジェクト）の準備の際にもNS-TAが指導を担当し、学生の学力のみならずコミュニケーション力の向上にも大きく資する体制となっている。

（英語英文学科）

2026年度に収容定員を80名から60名に減らす予定であるが、2025年度と比べて開講科目の変更はなく、1年次の導入教育から4年次の卒業論文に至るまでの専門科目における学びの流れや教育の質は維持される。

収容定員の削減により、1年次・2年次の必修科目「英語読解」と「英語表現」では、専門性の高い教材を用いたインプット・アウトプット能力向上のための英語スキル科目を、より少人数で運営できるようになり、本学科の英語教育の新たな特色である4技能・5領域統合型の「Integrated English Learning」への橋渡しが容易になる。

また、「1年セミナー」から「2年セミナー」にかけてのアカデミックスキル指導の仕組みは、今回の収容定員削減によって、学生の発表機会の増加と、教員が学生一人当たり割く指導時間の確保に貢献することは間違いない。共通シラバスの導入や担当教員の半期ごとのローテーションにより、すべての学生が「文化」と「教育」の両分野にバランスよく触れられる仕組みも、60名の収容定員においてより効果的に機能するといえる。

（イ）教育方法及び履修指導方法の変更内容

（国語国文学科）

教育方法・履修指導方法においても、2025年度以前の方法を踏襲する。以下のような内容である。

1年次：入学直後にオリエンテーションを行い、教務担当教員が4年間のカリキュラムや履修上の注意点を説明する。また、少人数による時間割の作成の指導を行う時間を設ける。1月には、2年次から履修開始となる文学部共通プログラムのガイダンスを開く。

2年次：新年度開始前にガイダンスを開き、文学部共通プログラムの開始に関すること、学科の専門科目とプログラム履修の両立に関すること、2年次から3年次の進級要件についての確認説明を行う。あわせて、ゼミ決定に向けた準備期間としての心構えについても指導を行う。

3年次：新年度開始前に資料配布を行い、ゼミへの取り組み方、4年生に向けた計画的な単位の履修に関する指導を行う。履修上の細かい注意点はオンデマンドで確認説明を行う。

4年次：新年度開始前に資料配布を行い、卒業単位、および卒業論文完成までのスケジュールの確認と、卒業論文に取り組む心構えについての指導を行う。履修上の細かい注意点はオンデマンドで確認説明を行う。

全学年を通して、国語国文学研究室において、個別の相談にも応じるほか、個々の学生に基幹教員の「アドバイザー」により、各学期の履修登録においては、再履修の計画を中心に学生個別に対応した履修指導を行う。

（フランス語フランス文学科）

専門ゼミまたは卒業論文を最終目標としたカリキュラムの道筋に変わりはない。必然的に、教育方法・履修指導方法においても、従来の方法を踏襲することとなる。

新入生に対しては、入学直後の教務ガイダンスにて、教務担当教員が4年間のカリキュラムを説明する。履修モデルを提示して学生の履修計画を助けるのはもちろん、実際にその場で前期の時間割も作成させる。教員は机間巡回しながら質問に答え、さらに上級生の学生スタッフにも質疑応答ができる場を用意し、新入生が問題なく前期の履修登録を済ませられるように導く。2年生に対しても、新年度開始前後にガイダンス資料を準備し、当該年次から履修開始となる科目や3コース選択を中心に指導する。また、2年次の後期には「専門ゼミ準備研究」を全員が履修し、各担当教員の専門分野や専門ゼミの内容を紹介する。

学生は、自身の関心や卒業論文で取り組みたい研究課題に合わせ、希望の「専門ゼミ」に応募する。（原則として3年、4年では同じ「専門ゼミ」を履修する）。3年次・4年次の学生に対しては、対面のガイダンスは不要であるため、進級・卒業要件などの履修上の要点を記載した資料を年度はじめに配布する。

全学年を通して、個々の学生に基幹教員の「アドバイザー」を配置する。各学期の履修登録においては、再履修の計画を中心に学生個別に対応した履修指導を行う。

（英語英文学科）

カリキュラムの全体的な構造は変更されず、最終的には卒業論文の完成を目指すことになる。そのため、従来の教育方法や履修指導の方針も引き続き採用される。

新入生に対しては、教務担当の教員が入学直後に対面形式のオリエンテーションを行い、4年間のカリキュラムについて説明する。このセッションでは、学生が自らの学習計画を立てるための履修モデルが提示されるほか、その場で1学期目の時間割を作成するよう指導が行われる。教員は学生の席を回り、質問に答えたり、履修登録をサポートしたりして、スムーズに履修を開始できるよう支援する。同様に、2年次の学生に対しても、新学期の開始時に対面指導が行われ、特に2年次から履修が始まる科目に重点を置いて指導が行われる。

2年次の後期には、「3年セミナー」の応募説明会が開かれ、各教員が専門分野やセミナーの内容を紹介する。学生は、自身の卒業論文の研究テーマに適したセミナーを選択し、履修希望を提出する。通常、「3年セミナー」の担当教員は、そのまま「4年セミナー」も指導する。3年次・4年次の学生には対面での履修指導は必要とされないため、各学年の始めに、進級や卒業のための履修要件を記した資料が配布される。

また、すべての学生には、在学期間を通して専任の「アドバイザー」教員が割り当てられる。各学期の履修登録期間には、個別の履修指導が行われ、特に再履修の計画については重点的にサポートが提供される。

(ウ) 教員組織の変更内容

(国語国文学科)

教員組織には変更はなく、収容定員の変更が行われる2026年度以降も、基幹教員数は2025年度と同じとする計画であり、教育の質は低下しない。

(フランス語フランス文学科)

教員組織には変更はなく、収容定員の変更が行われる2026年度以降も、基幹教員数は2025年度と同じとする計画であり、教育の質は低下しない。

(英語英文学科)

教員組織には変更はなく、収容定員の変更が行われる2026年度以降も、基幹教員数は2025年度と同じとする計画であり、教育の質は低下しない。

(エ) 施設・設備の変更内容

(1) 校地・運動場の整備計画

本学の校地、運動場については、校地面積が51,919.59㎡（内校舎敷地43,010.59㎡、運動場敷地8,909.00㎡、その他382.49㎡）であり、大学設置基準に定める面積を十分に満たしている。

今回、収容定員の変更は大学全体の収容定員総数が1,740名から1,420名への減少を伴うものであり、また既存施設の利用を前提としているため、新規施設等の建築・建設計画の必要性はない。

整備された施設として、ランチタイムに多くの学生が集まり交流する学生食堂は照明設備や空調設備をリニューアル（平成28年）また無線LANエリアの拡張をおこない（平成29年）居心地が良い学生の集うスペースとなっている。学生アンケートでも改善要望の多かった3号館のトイレの全面改修を行った（平成30年）。機能面、衛生面、身嗜みを整える充実性あるトイレに改修し、「だれでもトイレ」は各フロアに設置している。ここ近年は大規模地震による外壁や天井材など非構造部材の落下物防止対策事業に取り組んでいる（平成30年）。主に高天井の講堂や体育館、大教室（R1308）、小体育館などは避難所としても利用できるため安全性の確保は極めて重要である。

1号館外壁防水改修（平成27年）をはじめ、2号館外壁防水改修（令和元年）、3号館外壁防水改修（令和2年～令和3年）、図書館外壁防水改修（令和4年）、体育館・本館外壁防水改修（令和5年）等、老朽対応を行いながら防災機能を強化する事業を積極的に推進している。

なお今回変更は定員減少である事から既存のものを利用する予定であり、主に備品等において経年劣化等に伴い更新が必要なものについては、年次計画に基づき順次行っていく予定である。

以上

¹ 「18歳人口と進学者数の推移（大学・短期大学）」「18歳人口推移（減少期別）」

² 「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）概要」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm

³ 例えば、文部科学省高等教育局「大学改革等の推進」

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/wg7/20201030/shiryout-2.pdf>

⁴

https://www.mof.go.jp/policy/budget/topics/budget_execution_audit/fy2023/sy0506/0506b.html

⁵ 「我が国の『知の総和』の向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）概要」

学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

【目次】

（１） 収容定員を変更する組織の概要	2
① 国語国文学科及びフランス語フランス文学科及び英語英文学科 （以下「３学科」）の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	2
② ３学科の特色	2
（２） 人材需要の社会的な動向等	2
① ３学科で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	2
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	4
③ ３学科の主な学生募集地域	4
④ 既設組織の定員充足の状況	4
（３） 学生確保の見通し	5
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
ア 既設組織における取組とその目標	5
イ ３学科における取組とその目標	6
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく，３学科での入学者の見込み数	7
② 競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	7
ア 競合校の選定理由と３学科との比較分析，優位性	7
イ 競合校の入学志願動向等	10
ウ ３学科において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合）	12
エ 学生納付金等の金額設定の理由	12
③ 先行事例分析	13
④ 学生確保に関するアンケート調査	13
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	13
（４） 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	13

（１）収容定員を変更する組織の概要

① 国語国文学科及びフランス語フランス文学科及び英語英文学科(以下「３学科」)の概要 (名称,入学定員(編入学定員),収容定員,所在地)

収容定員を変更する組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
白百合女子大学文学部				
国語国文学科	60	—	240	東京都調布市緑ヶ丘 1丁目25番地
フランス語フランス文学科	40	—	160	
英語英文学科	60	—	240	

② ３学科の特色

３学科の所属する文学部は、専攻する言語・文学・文化の研究を通して、高いコミュニケーション能力を身につけ、自文化と他文化にわたる豊かな教養をもとに、多様な場面で他者と対話し、協働できる人材の育成を目的としている。国語国文学科では、日本の言葉や文学を見つめ直し、調査・研究する力を身につけることを通して、豊かな教養と柔軟な発想をもった人材の育成を目的としている。フランス語フランス文学科では、フランス語圏の言語・文化・文学の総合的な学習を通して、高度な言語運用能力と異文化理解に立脚した教養を身につけた人材の育成を目的としている。英語英文学科では、英語圏の言語・文化・文学の研究を通して、海外だけでなく自国の文化をも再評価できる広い視野を培い、国際的に活躍できる人材の育成を目的としている。３学科の学位は学士（文学）である。

（２）人材需要の社会的な動向等

① ３学科で養成する人材の全国的,地域的,社会的動向の分析

上記②「３学科の特色」で記載した本学部・学科が目的とする育成する人材像の要素を「高いコミュニケーション能力」「豊かな教養」「協働」の３項目に分類し、更に３学科と親和性の高い「国際的活躍」「外国語能力」を加えた５つの能力に係る人材需要について分析を行った。

「高いコミュニケーション能力」について、日本経済団体連合会が公表した「2018年度新卒採用に関するアンケート調査（回答：597社）」の結果【資料１】によると、選考で重視した点は、「コミュニケーション能力」が82.4%で１位（16年連続）となった。現在はコミュニケーション能力の定義が細分化されアンケート項目が異なっているが、企業及び社会が人材に求める要素としてコミュニケーション能力が不変の要素であることに変わりはない。

「豊かな教養」について、「大学教育の改善について（答申）（平成3年2月8日 大学審）」【資料２】によると、「一般教養の理念・目標は、学生に学問を通じ、広い知識を身に付けさせるとともに、ものを見る目や自主的・総合的に考える力を養うこと。」とあり、また「一般教育の理念・目標は、大学の教育が専門的な知識の修得だけにとどまることのないように、学生に学問を通じ、広い知識を身に付けさせるとともに、ものを見る目や自主的・総合的に考える力を養うことにあり、入学してくる学生や諸科学の発展の現状から見て、このような理念・目標を実現することが一層必要。」と記載されている。

本学の全学共通科目は、リベラル・アーツの観点に立ち、基礎的素養や学問の作法、多角的な視点や情報社会への対応を身につけ、自立した女性になるための土台となる多彩な教養科目を提供している。また、全学対象のキャリアデザインプログラムとして、国際的就業力を養いグローバル化する社会で活躍できる人材を育成する「グローバルビジネスプログラム」、ホスピタリティを学問的・実務的に幅広く学び、白百合の精神を実践する「ホスピタリティ・マネジメントプログラム」、データサイエンスやAIを適切に理解し、活用する基礎的な能力を向上する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を行い、社会的な人材需要の要請に込えている。

「協働」は立場の異なる者同士が共通の問題解決を目的に、対等な関係で協力し合うことと定義されるが、文部科学省が、学生が大学4年間で身につけるべき能力として、専門知識や技能だけではなく、コミュニケーション・スキル、問題解決能力、自己管理能力、チームワークなどを項目化した「学士力」【資料3】の(2)チームワーク、リーダーシップ(他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。)と親和性が高い。また経済産業省が職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として定義した社会人基礎力(3つの能力・12の能力要素)【資料4】における「チームで働く力(チームワーク)」とも親和性が高く、社会的な人材需要の要請に込えていると判断できる。

「国際的活躍」については「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略(平成23年4月28日産学連携によるグローバル人材育成推進会議)」【資料5】によると、「グローバル人材とは、世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」として定義され、また「このような人材を育てるための教育が一層必要となっている」と記載されている。

本学では、グローバル社会で求められる語学力を身に付けるため、外国語教育に力を入れている。全学科の1・2年次には、必修または選択必修の「外国語科目」を設置しているだけでなく、必修とは別に選択制の外国語科目も用意している。希望する学生は、4年間を通して複数の外国語を選択履修することも可能である。また、ネイティブのアシスタントによるサポート体制も充実しており、英語とフランス語では、ネイティブ・スピーカー・ティーチング・アシスタント(NS-TA)から、授業の準備や復習、検定試験の対策、会話や作文の個人レッスンなど、個々のニーズに応じたきめ細かな支援を受けることができる。NS-TAは学生と年齢が近く、勉強に関することを気軽に相談できる存在であり、教員と友人の中間的な立場として、多くの学生を支えている。さらに、留学の前後や外資系企業への応募の際にも指導を行い、学生の語学力だけでなく、就業力の向上にも大きく貢献している。さらに、世界9ヶ国30校の留学先を用意しており、半年以上の長期留学はもちろん、「複言語・複文化海外研修プログラム」などで短期研修を組み合わせることも可能である。異文化に触れながら国際的視野と実践的な言語スキルを磨くことができる。これらの取り組みによって「外国語能力」を育成している。

② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

【資料 6】に示す通り、18 歳人口の推移予測では 2024 年度の 18 歳人口を 100 とした指数を用いた場合、2036 年度の全国の 18 歳人口指数は 88.6 となる。一方で【資料 7】に示す通り、東京都の 18 歳人口指数は 100.5 で減少しない。首都圏 3 県の 18 歳人口指数も神奈川県 92.3、埼玉県 90.7、千葉県 91.3 を維持しており、その減少幅は全国と比較して緩やかなものである。

したがって 3 学科在学生の主な出身都道府県である首都圏（1 都 3 県）からは中長期的に入学者を確保できるものと見込まれる。

③ 3 学科の主な学生募集地域

学校基本調査「出身高校の所在地別入学者数」によると東京都所在の私立大学における入学者（女子）の出身高校の所在地は首都圏（1 都 3 県）が約 71.31%を占める【別紙 1】が、同様に本学入学者（全体）の出身高校の所在地別入学者数の構成比は首都圏（1 都 3 県）が約 71.34%を占める【資料 8】。

また東京都所在の女子大学であり競合関係にある大妻女子大学（家政学部、文学部、社会情報学部、人間関係学部、比較文化学部）の出身高校の所在地別入学者数の構成比は首都圏（1 都 3 県）が 80.57%を占める【資料 9】。

また日本私立学校振興・共済事業団「令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、3 学科の所在地である東京都（学部所在地）の定員充足状況は令和 4 年度～令和 6 年度までいずれも 100.0%を上回る数値で推移しており、更に 3 学科の属する学問分野である人文科学系学部の定員充足状況は 95.96%～98.93%の範囲で推移している【別紙 1】。

以上、3 学科の主な出身地域である首都圏（1 都 3 県）の 18 歳人口減少幅は緩やかであること、東京都所在の私立大学、本学及び競合大学は首都圏からの入学者が 70%以上であること、また東京都内所在及び人文科学系学部の定員充足率は過去 3 年間に於いて 100.0%程度で推移していることを鑑みると、3 学科は中長期的に入学定員が安定して確保できるものと見込まれる。

なお 2024 年度入試における白百合女子大学全体の出身高校の所在地別入学者割合に収容定員変更後の入学定員（160 名）を乗じて試算を行った場合、2026 年度以降は東京都：74 名、神奈川県：16 名、埼玉県：13 名、千葉県：11 名、その他道府県：46 名程度以上の入学者確保が可能と見込まれる。

④ 既設組織の定員充足の状況

本学の既設学科における定員充足状況は【別紙 2－1～6】既設学科の入学定員の充足状況（過去 5 年間）に記載の通りである。

文学部国語国文学科【別紙 2－1】の入学定員充足率は、令和 4 年度から令和 7 年度入試にかけて、順に 100%、69%、61%、86%となっている。また、フランス語フランス文学科【別紙 2－2】では、同期間において充足率がそれぞれ 65%、66%、43%、33%となっている。さらに、英語英文学科【別紙 2－3】においては、42%、46%、43%、66%と推移している。

これらの状況は 18 歳人口減少、女子の共学志向に加えて社会科学系等の学部学科を選択するなど進学先の多様化による全国的な人文科学系・社会科学系の志望者の減少【資料 10】に依ることも然ることながら、【資料 11】記事に示すようにコロナ禍の影響も大きいと推察される。記事によると、コロナ禍の影響で『就職に直結しやすいイメージが強い学部』に人気が集まる、『特に減少が大きく目立ったのは外国語や地域・国際といった学部で、減少幅が大きかった』、『コロナ下で特色である海外留学の制限や、インバウンド（訪日外国人客）の縮小による就職活動の先行き不安』といった動向が示されている。本学では英語英文学科、フランス語フランス文学科といった、とりわけ外国語や地域・国際との親和性の高い学科が強い影響を受けたと考えるが、コロナ禍も概ね収束しており、インバウンド需要も活発であることから、観光業をはじめ、さまざまな業界で経済効果や地域活性化をもたらすことが予測され、訪日外国人の日本文化に対するニーズに呼応する国語国文学科において人気は一定レベルに回復すると考えられる。また、英語英文学科やフランス語フランス文学科においても、コロナ禍以前の水準を維持できると見込まれる。

人間総合学部児童文化学科【別紙 2－4】については、概ね入学定員を上回る受験者数、入学者数を確保しており、過去 5 年間の定員充足率が平均 98%である。発達心理学科【別紙 2－5】については、入学定員を上回る受験者数、入学者数を確保しており、過去 5 年間の定員充足率が平均 114%を維持しており、今後も安定して入学者数を確保できるものと見込まれる。初等教育学科【別紙 2－6】における過去 5 年間の入学定員充足率は平均 78%となっている。この背景には、全国的な教職人気の低下があると考えられ、教員志望者数の減少や教員採用試験の志願倍率の低下が、その一因となっている。

なお本学では入学試験の合否判定に際して、過年度の予測から結果に至る状況を厳密に精査して入学手続き率を予測し合格者を決定するように努めている。その結果として定員未充足となった年度、学科が散見されるが、この要因は歩留まり予測を見誤ったためであり「定員管理に係る私立大学経常費補助金の取扱」における入学定員超過率を厳格する措置を受けて、入学定員が超過しないようにすることを重視しているためである。

当該学部・学科の受験者数の増加、定員の持続的な充足を視野に、引き続き学生募集活動、入試制度及び教育課程の改善を継続的に進め、制度の充実を行っていく予定である。

（３）学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学では、ホームページや SNS 等を活用した広報活動を行うほか、大学案内、入試ガイドや募集要項などの媒体で広く周知を図っている。また、オープンキャンパスや個別相談会の実施、高校訪問、各種進学相談会への参加を積極的に行い、本学部の教育の特色や魅力を伝え学生確保に向けた取り組みを行っている。

具体的な取り組みについては、【別紙 3】の既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績に示す通りであるが、各学科の現状の入学者数に、プラスとして入学者数増の目標人数を以下のとおり定める。なお、多めの入学者数増を設定することで、入学定員を

適正に管理することが出来る。

文学部国語国文学科 10名 (R5、R6年度のデータより10名増を目標)

文学部フランス語フランス文学科 15名 (R5、R6年度のデータより15名増を目標)

文学部英語英文学科 10名 (R5、R6年度のデータより10名増を目標)

人間総合学部児童文化学科 10名 (R5、R6年度のデータより10名増を目標)

人間総合学部発達心理学科 現状維持

人間総合学部初等教育学科 20名 (R5、R6年度のデータより20名増を目標)

大学全体で、65名増を目標に定める。

オープンキャンパスについては大学全体の参加者の39.0%が受験し、29.8%が入学しており (R6,7 平均)、オープンキャンパスの参加者 (受験対象者) の目標人数は以下のとおりとする。

文学部国語国文学科 34名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 29.8%)

文学部フランス語フランス文学科 50名増 (15名 $\times$ 100 $\div$ 29.8%)

文学部英語英文学科 34名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 29.8%)

人間総合学部児童文化学科 34名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 29.8%)

人間総合学部発達心理学科 現状維持

人間総合学部初等教育学科 67名増 (20名 $\times$ 100 $\div$ 29.8%)

大学全体で、1,131名 (R7年度実績) + 219名 (上記増加目標人数の合計) = 1,350名を目標に定める。

受験対象者を対象とした大学案内等資料発送配布 (郵送) については、発送者のうち6.9%が受験し、2.8%が入学しており (R6,7 平均)、大学案内等資料発送配布数 (受験対象者) 目標人数は以下のとおりとする。

文学部国語国文学科 358名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 2.8%)

文学部フランス語フランス文学科 536名増 (15名 $\times$ 100 $\div$ 2.8%)

文学部英語英文学科 358名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 2.8%)

人間総合学部児童文化学科 358名増 (10名 $\times$ 100 $\div$ 2.8%)

人間総合学部発達心理学科 現状維持

人間総合学部初等教育学科 715名増 (20名 $\times$ 100 $\div$ 2.8%)

大学全体で、3,472名 (R7年度実績) + 2,325名 (上記増加目標人数の合計) = 5,797名を目標に定める。

イ 3学科における取組とその目標

3学科における取組とその目標は、「ア 既設組織における取組とその目標」で述べた通りであり、既存の取り組みをより一層効果的に改善・強化して行う。

各学科の入学者数増の目標人数

文学部国語国文学科 10名

文学部フランス語フランス文学科 15名

文学部英語英文学科 10名

大学全体で、65 名増を目標に定める。

オープンキャンパスの参加者（受験対象者）の目標人数

文学部国語国文学科 34 名増（10 名×100÷29.8%）

文学部フランス語フランス文学科 50 名増（15 名×100÷29.8%）

文学部英語英文学科 34 名増（10 名×100÷29.8%）

大学全体で、昨年比 219 名増の 1,350 名を目標に定める。

大学案内等資料発送配布数（受験対象者）目標人数

文学部国語国文学科 358 名増（10 名×100÷2.8%）

文学部フランス語フランス文学科 536 名増（15 名×100÷2.8%）

文学部英語英文学科 358 名増（10 名×100÷2.8%）

大学全体で、昨年比 2,325 名増の 5,797 名を目標に定める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、3 学科での入学者の見込み数

今後上記「ア 既設組織における取組とその目標」及び「イ 3 学科における取組とその目標」に記載の取り組みをより一層効果的に改善・強化しながら行っていくことで多くの受験生、保護者、高校の教員等に本学・学科の教育の特色や魅力を伝えることが可能となるため、変更後の入学定員（国語国文学科と英語英文学科は 60 名、フランス語フランス文学科は 40 名）と収容定員（国語国文学科と英語英文学科は 240 名、フランス語フランス文学科は 160 名）の確保については十分に可能であると判断できる。

② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と 3 学科との比較分析、優位性

本学科と競合校の比較分析及び本学科の優位性について説明するにあたり、学校種（4 年制私立大学）、定員規模（45～350 名）、学問分野（文学関係）、所在地（東京都、埼玉県、神奈川県的首都圏内）、学力層（入学偏差値）の類似性の観点から 3 学科合わせて以下の 7 大学を競合校と選定した。

3 学科の競合校（以下「競合校」という。）

（大学名 50 音順）

（国語国文学科）

大学	学部 学科	入学定員	学位	所在地	偏差値 （河合塾）
大妻女子 大学	文学部 日本文学科	120	学士（文学）	東京都 千代田区	37.5
共立女子 大学	文芸学部 文芸学科日本語・日本文学専修	350	学士（文芸学）	東京都 千代田区	45.0
実践女子 大学	文学部 国文学科	110	学士（文学）	東京都 渋谷区	45.0
聖心女子 大学	現代教養学部 日本語日本文学科	45	学士（日本語日本文学）	東京都 渋谷区	40.0
清泉女子 大学	総合文化学部 総合文化学科日本文化領域	230	学士（人文科学）	東京都 品川区	40.0

偏差値：「Kei-Net2025 年度入試難易予想ランキング表」より作成

(フランス語フランス文学科)

大学	学部 学科	入学定員	学位	所在地	偏差値 (河合塾)
共立女子 大学	文芸学部 文芸学科フランス語・フランス文 学専修	350	学士(文芸学)	東京都 千代田区	45.0
獨協大学	外国語学部 フランス語学科	95	学士(外国文化)	埼玉県 草加市	47.5

偏差値：「Kei-Net2025 年度入試難易予想ランキング表」より作成

(英語英文学科)

大学	学部 学科	入学定員	学位	所在地	偏差値 (河合塾)
大妻女子 大学	文学部 英語英文学科	120	学士(文学)	東京都 千代田区	35.0
共立女子 大学	文芸学部 文芸学科英語・英語圏文学専修	350	学士(文芸学)	東京都 千代田区	45.0
聖心女子 大学	現代教養学部 英語文化コミュニケーション学科	80	学士(英語英文学)	東京都 渋谷区	40.0
清泉女子 大学	総合文化学部 総合文化学科国際文化領域	230	学士(人文科学)	東京都 品川区	40.0
フェリス 女学院大学	グローバル教養学部 文化表現学科ヨーロッパ・アメリ カ専攻	170	学士(教養)	神奈川県 横浜市	35.0

偏差値：「Kei-Net2025 年度入試難易予想ランキング表」より作成

「教育内容と方法」について、国語国文学科と英語英文学科では 2026 年度に入学定員を 80 名から 60 名に、フランス語フランス文学科では 80 名から 40 名に減らすことを予定しているが、2025 年度にカリキュラムを再編したため、今年度は大きな変更はなく、1 年次の導入教育から 4 年次の卒業論文に至るまでの全学共通科目から専門科目における「教育方法」は維持される。

全学年を通して、個々の学生に専任教員の「アドバイザー」を配置し、各学期の履修登録においては、再履修の計画を中心に学生個別に対応した履修指導を行う等、学生一人ひとりへの手厚い学修サポートや資格取得へのサポート等を実現する少人数教育は更に充実する見込みであり競合校と比較しても十分優位性を担保できると判断できる。

「入試(競合校の受験時期、入学手続時期との関係)」について、本学における令和 8(2026)年度一般選抜日程は、前期 A 日程を 1/22、B 日程を 2/3、後期試験を 3/9 に設定しているが、2026 年度のスケジュールが未公表の実践女子大学と獨協大学を除く上記の競合大学も同様に 1 月下旬、2 月上旬、3 月上旬を中心としたスケジュールで 2～4 日程を設定している。本学の一般入試は全 3 日程であり競合大学と比較して平均的だが、上記の競合大学の日程とバッティングしている大学はない。以上より、高校生の受験機会の確保に向けた配

慮は十分行っており、受験機会の優位性は担保していると判断できる。

また、本学の入学手続き時期は前期 A 日程を 2/9、B 日程を 2/18、後期試験を 3/17 に設定しているが、競合大学の入学手続き締切日も同様に 1 月下旬～2 月上旬の入試では 2 月の上中旬、3 月上旬の入試では 3 月の中旬に設定している。

本学の手続き締切日は他大学と同等の日程ではあるが、後期試験の入学手続き締切日（3/17）は競合大学と比較して遅く、国公立大学を含め複数大学を併願する高校生にとっての利便性は高く学生確保に向けた優位性は高いと判断できる。

「学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容」について、本学では独自の給付型奨学金を以下 4 種設置し、経済的に学業の継続が困難と認められる学生や学業において優秀な成績を挙げた学生への奨励を行っている。

- ・「白百合女子大学奨学金」
- ・「白百合女子大学同窓会奨学金(ジャンヌ・ダルク奨学金)」
- ・「白百合女子大学外国留学規定内規に基づく奨学金」
- ・「白百合女子大学同窓会特別奨学金」

また「被災者支援特別措置（学納金の減免）」を実施していることから、本学の学生納付金奨学制度などの修学支援は競合大学と比較した場合、質・量とも充実し、適切な内容であるといえる。

「就職支援の内容」について本学では、3 年次の 5 月以降、3 回にわたって開催される「就職総合ガイダンス」から、「インターンシップガイダンス」「父母向けキャリアガイダンス」「個別オリエンテーション」「個別面談」「筆記（SPI、玉手箱、CAB/GAB）対策講座」「夏期集中就活基礎力講座」「冬期集中就活実践力講座」「企業セミナー」「企業見学会」「履歴書・ES（エントリーシート）対策講座」「面接対策講座、面接練習」「学生アドバイザー相談会」「パネルディスカッション（内定者／OG）」「OG 訪問会」「就職活動報告書」「教職・保育職志望者向け講座」「大学教員志望者向け情報（大学院学生向け「プレ FD」情報）」等の多彩な講座、プログラム、情報を揃え、少人数ならではのきめ細かいキャリア支援を行っている。また外部連携として「都内女子大学合同企業説明会」「他大学合同グループディスカッション講座」にも参画している。このような一連の取り組みによる一人ひとりとの対話と相互理解を通じた「納得のいく就職活動」により、就職率 99%（2024 年度）、就職決定先（就職活動）への満足度 93%を担保している。

また全学が対象となるキャリアデザインプログラムは、国際的就業力を養い、グローバル化する社会で活躍できる人材を育成する「グローバルビジネスプログラム（GBP）」、ホスピタリティを学問的・実務的に幅広く学び、白百合の精神を実践する人材を育成する「ホスピタリティ・マネジメントプログラム（HMP）」、データサイエンスや AI を適切に理解し、活用する基礎的な能力を向上させる「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（DSP）」を開設し、それぞれの専門の学びに加えて、自身のキャリアイメージに応じて、社会で幅広く活躍するための知識やスキルを習得することで、さらなる成長や自己実現につながる支援を行っている。

因って、国語国文学科卒業生の就職率は 2022 年度生が 95%、2023 年度生 98%、2024 年度生 97%、フランス語フランス文学科卒業生の就職率は 2022 年度生が 98%、2023 年度生 100%、2024 年度生 100%、英語英文学科卒業生の就職率は 2022 年度生が 97%、2023 年度

生 99%、2024 年度生 99%と高いレベルで推移している。

以上の通り、本学及び本学科における就職支援の内容及び実績は、競合大学と比較した場合でも十分に充実した内容であると言える。

本学科で「取得できる資格」には「中学校・高等学校教諭（一種）」があり、3 学科の専門知識をベースに、教科を教える技術と人間的な魅力を兼ね備えた教員の育成を目指している。教育現場を体験する機会も数多くあり、現場で活躍する教員や生徒たちとの触れ合いを通じて実践力を養うことが可能である。

また「司書」課程で「情報サービス演習」「情報資源組織演習」「児童サービス論」など所定の科目を履修することで「司書」資格が取得できる他、教職課程履修者が「学校経営と学校図書館」など所定の単位を取得し、且つ教諭免許を取得することで「司書教諭」の資格を取得することが可能である。

更に学内プログラムとして「登録日本語教員養成プログラム」「児童英語プログラム」「学校司書のモデルカリキュラム（教職課程または司書課程履修者）」「舞台芸術実践プログラム」の設置があり、学生の個々の志向に応じて将来のキャリアにつながる能力やスキル、経験知を習得することができる。

取り分け「舞台芸術実践プログラム」は日本・フランス・英米の舞台系術、演劇の歴史と広がり学ぶユニークなプログラムで、舞台芸術、演劇に対する深い知識と国際的な視野を身につけることができる。舞台の制作過程の実践的な学びは競合大学と比較しても稀有なプログラムとなっており、本学科の優位性を担保する一助となっている。

イ 競合校の入学志願動向等

本学の 3 学科と同分野の教育内容を有する競合校の過去 3 年間の入学志願状況（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）を以下に示す。

競合校の過去 3 年間の入学者の状況

（国語国文学科）

大学	学部学科	入試年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
大妻女子大学	文学部 日本文学科	2024	120	424	415	304	128	106.7%
		2023	120	397	382	265	123	102.5%
		2022	120	323	306	236	121	100.8%
共立女子大学	文芸学部 文芸学科	2024	350	1,173	1,078	853	349	99.7%
		2023	350	1,073	1,009	790	328	93.7%
		2022	350	967	903	752	363	103.7%
実践女子大学	文学部 国文学科	2024	110	436	非公表	312	127	115.5%
		2023	110	432	非公表	255	128	116.4%
		2022	110	339	非公表	228	119	108.2%
聖心女子大学	現代教養学部	2024	490	1,136	非公表	731	524	106.9%
		2023	490	1,317	非公表	893	599	122.2%
		2022	490	1,364	非公表	898	575	117.3%
清泉女子大学	総合文化学部 総合文化学科	2024	65	278	247	208	78	120.0%
		2023	80	283	253	175	49	61.3%
		2022	80	259	231	170	54	67.5%

※聖心女子大学は学部一括募集、2 年次より学科配属のため学部全体の数値で表記

※清泉女子大学は 2025 年より学部学科改組のため、文学部日本語日本文学科の数値を記載

※清泉女子大学は A0 入試・Global Citizen 育成型入試の受験者数＝志願者数として集計

※清泉女子大学は学校推薦型選抜（指定校）を除いた数

※大妻女子大学は一般選抜以外の方式で志願者数＝受験者数として集計

（フランス語フランス文学科）

大学	学部学科	入試年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
共立女子大学	文芸学部 文芸学科	2024	350	1,173	1,078	853	349	99.7%
		2023	350	1,073	1,009	790	328	93.7%
		2022	350	967	903	752	363	103.7%
獨協大学	外国語学部 フランス語学科	2024	95	918	906	445	113	118.9%
		2023	95	967	948	520	126	132.6%
		2022	95	1,082	1,063	643	103	108.4%

（英語英文学科）

大学	学部学科	入試年度	入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
大妻女子大学	文学部 英語英文学科	2024	120	504	492	429	116	96.7%
		2023	120	430	414	387	106	88.3%
		2022	120	470	448	258	123	102.5%
共立女子大学	文芸学部 文芸学科	2024	350	1,173	1,078	853	349	99.7%
		2023	350	1,073	1,009	790	328	93.7%
		2022	350	967	903	752	363	103.7%
聖心女子大学	現代教養学部	2024	490	1,136	非公表	731	524	106.9%
		2023	490	1,317	非公表	893	599	122.2%
		2022	490	1,364	非公表	898	575	117.3%
清泉女子大学	総合文化学部 総合文化学科	2024	75	167	150	133	42	56.0%
		2023	100	253	225	171	55	55.0%
		2022	100	238	217	161	73	73.0%
フェリス女学院大学	グローバル教養学部 文化表現学科	2024	90	117	109	104	59	65.6%
		2023	90	171	156	146	71	78.9%
		2022	90	187	176	163	66	73.3%

※聖心女子大学は学部一括募集、2 年次より学科配属のため学部全体の数値で表記

※大妻女子大学は一般選抜以外の方式で志願者数＝受験者数として集計

※清泉女子大学は 2025 年より学部学科改組のため、文学部英語英文学科の数値を記載

※清泉女子大学は A0 入試・Global Citizen 育成型入試の受験者数＝志願者数として集計

※清泉女子大学は学校推薦型選抜（指定校）を除いた数

※フェリス女学院大学は 2025 年より学部学科改組のため、文学部英語英米文学科の数値を記載

2022 年度～2024 年度にわたる競合 7 大学の入学志願動向等を調査した結果、年度により定員充足率が 100.0%を割る大学が散見されたが、3 ヶ年とも 7 大学すべてにおいて志願者が入学定員を上回る状況であった。これらの 7 大学（学部・学科）はいずれも 今回定員を変更する学科の併願校であり、入学定員を 80 名から 60 名（フランス語フランス文学科は 40 名）に変更する 3 学科においても定員充足する入学者を確保できると想定される。

ウ 3 学科において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合）

3 学科の収容定員変更は、入学定員及び収容定員を減らすことにより「入学者の質の確保」と本学教育の特色である「少人数教育の充実」を維持するものである。

上記（２）人材需要の社会的な動向等「④ 既設組織の定員充足の状況」、（３）学生確保の見通し②競合校の状況分析「ア 競合校の選定理由と 3 学科との比較分析, 優位性」及び「イ 競合校の入学志願動向等」を踏まえた場合、国語国文学科と英語英文学科は、入学定員を現行の 80 名から 60 名に、フランス語フランス文学科は入学定員を現行の 80 名から 40 名に変更し、引き続き 3 学科の教育の特色や魅力に関する周知・広報を行うことで、変更後の入学定員（国語国文学科と英語英文学科は 60 名、フランス語フランス文学科は 40 名）および収容定員（国語国文学科と英語英文学科は 240 名、フランス語フランス文学科は 160 名）の確保については十分に可能であると判断できる。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金については、本学の優位性を担保し競争性を有すること、本学科の目的を達成するために必要な人件費や教育研究および管理運営に係る経費等を維持しつつ、収支バランスを考慮すること、また下表競合大学の納付金額と同等で適切な範囲であることを踏まえて設定した。

学生納付金の状況

（国語国文学科）

大学	学部学科	入学金	授業料	施設設備費、 教育充実費等	1 年次 納入金	2 年次以降 納入金
白百合女子大学	文学部 国語国文学科	¥240,000	¥740,000	¥410,510	¥1,390,510	¥1,146,500
大妻女子大学	文学部 日本文学科	¥150,000	¥745,000	¥505,250	¥1,400,250	¥1,250,250
共立女子大学	文芸学部 文芸学科日本語・日 本文学専修	¥150,000	¥680,000	¥460,000	¥1,290,000	¥1,120,000
実践女子大学	文学部 国文学科	¥240,000	¥770,000	¥413,010	¥1,427,010	¥1,163,000
聖心女子大学	現代教養学部 日本語日本文学科	¥250,000	¥700,000	¥420,000	¥1,370,000	¥1,120,000
清泉女子大学	総合文化学部 総合文化学科日本文 化領域	¥250,000	¥780,000	¥394,000	¥1,424,000	¥1,174,000

（フランス語フランス文学科）

大学	学部学科	入学金	授業料	施設設備費、 教育充実費等	1 年次 納入金	2 年次以降 納入金
白百合女子大学	文学部 フランス語フランス 文学科	¥240,000	¥740,000	¥410,510	¥1,390,510	¥1,146,500

共立女子大学	文芸学部 文芸学科フランス 語・フランス文学専 修	¥150,000	¥680,000	¥460,000	¥1,290,000	¥1,120,000
獨協大学	外国語学部 フランス語学科	¥190,000	¥840,000	¥316,800	¥1,346,800	¥1,132,800

(英語英文学科)

大学	学部学科	入学金	授業料	施設設備費、 教育充実費等	1年次 納入金	2年次以降 納入金
白百合女子大学	文学部 英語英文学科	¥240,000	¥740,000	¥410,510	¥1,390,510	¥1,146,500
大妻女子大学	文学部 英語英文学科	¥150,000	¥745,000	¥505,250	¥1,400,250	¥1,250,250
共立女子大学	文芸学部 文芸学科英語・英語 圏文学専修	¥150,000	¥680,000	¥460,000	¥1,290,000	¥1,120,000
聖心女子大学	現代教養学部 英語文化コミュニケ ーション学科	¥250,000	¥700,000	¥420,000	¥1,370,000	¥1,120,000
清泉女子大学	総合文化学部 総合文化学科国際文 化領域	¥250,000	¥780,000	¥394,000	¥1,424,000	¥1,174,000
フェリス女学院 大学	グローバル教養学部 文化表現学科	¥200,000	¥889,000	¥328,470	¥1,417,470	¥1,204,340

③ 先行事例分析

既設組織の廃止を伴う新設組織の設置及び収容定員の増加に該当しないため、記載事項なし。

④ 学生確保に関するアンケート調査

今回は、学則変更の趣旨等を記載した書類及び、(2) 人材需要の社会的な動向等「④ 既設組織の定員充足の状況」に示す過去の入学実績等の数値に基づき、変更後の入学定員の確保について問題ないと判断する為、アンケート調査は実施していない。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

今回は、学則の変更の趣旨等を記載した書類、(2) 人材需要の社会的な動向等「① 3 学科で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析」及び(3) 学生確保の見通し「② 競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況) ア 競合校の選定理由と 3 学科との比較分析, 優位性」等に示す実績等の数値に基づき、変更後の人材需要についても問題ないと判断する為、アンケート調査は実施していない。

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

女子の大学進学率は男子に比べ上昇幅が大きく、大学入学者数も増加しているが、今後 18 歳人口減少に伴い入学者数は減少すると目される。また女子の共学志向に加え、社

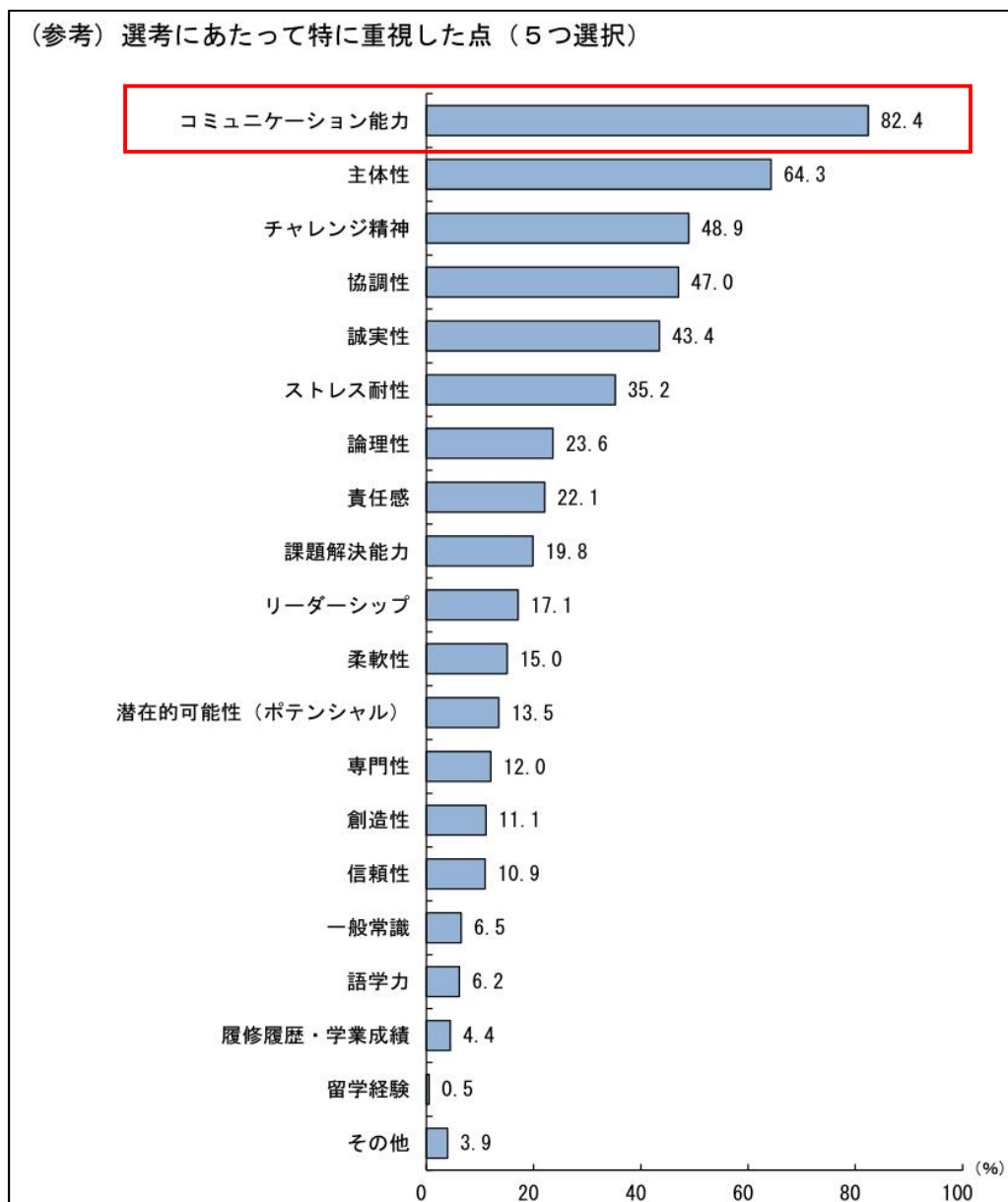
会科学系等の学部学科を選択するなど進学先の多様化、更にコロナ禍の影響等により、3 学科への進学希望者が減少している。

一方で【資料 10】および【別紙 2－1】【別紙 2－2】【別紙 2－3】に記載の通り、私立大学人文系学部および本学 3 学科に一定数の入学希望者がいることを踏まえ、国語国文学科と英語英文学科の入学定員を 80 名→60 名、収容定員を 320 名→240 名に減らし、フランス語フランス文学科の入学定員を 80 名→40 名、収容定員を 320 名→160 名に減らすことにより「適切な定員充足率」、「入学者の質の確保」と本学教育の特色である「少人数教育の充実」を前提に、3 学科の定員充足を見込むことができる。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

【資料 1】	2018 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果	・ ・ ・ 2
【資料 2】	大学教育の改善について（答申）（平成3年2月8日 大学審）	・ ・ ・ 3
【資料 3】	学士力（文部科学省）	・ ・ ・ 4
【資料 4】	社会人基礎力（経済産業省）	・ ・ ・ 4
【資料 5】	産学官によるグローバル人材の育成のための戦略	・ ・ ・ 5
【資料 6】	18歳人口予測（全体：全国：2024～2036年）	・ ・ ・ 6
【資料 7】	18歳人口予測（全体：都道府県別：2024～2036年）	・ ・ ・ 7
【資料 8】	白百合女子大学（全体）の出身高校の所在地別入学者数	・ ・ ・ 8
【資料 9】	大妻女子大学（全体）の出身高校の所在地別入学者数	・ ・ ・ 8
【資料10】	学部系統別の動向過去 5 ヲ年の推移（大学）	・ ・ ・ 8
【資料11】	「コロナ禍で就職見すえ学部選択」（産経ニュース記事）	・ ・ ・ 9
【別紙 1】	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	・ ・ ・ 10
【別紙 2-1】	文学部国語国文学科	・ ・ ・ 11
【別紙 2-2】	文学部フランス語フランス文学科	・ ・ ・ 12
【別紙 2-3】	文学部英語英文学科	・ ・ ・ 13
【別紙 2-4】	人間総合学部児童文化学科	・ ・ ・ 14
【別紙 2-5】	人間総合学部発達心理学科	・ ・ ・ 15
【別紙 2-6】	人間総合学部初等教育学科	・ ・ ・ 16
【別紙 3】	既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績	・ ・ ・ 17

【資料1】 2018 年度 新卒採用に関するアンケート調査結果



(2018 年11月22日 一般社団法人 日本経済団体連合会)

【資料2】◇ 大学教育の改善について（答申）（平成3年2月8日 大学審）

1 大学が養成する人材像，教育内容（教養教育等）の在り方

◇ 大学教育の改善について（答申）（平成3年2月8日 大学審）

○ 一般教養の理念・目標は，学生に学問を通じ，広い知識を身に付けさせるとともに，ものを見る目や自主的・総合的に考える力を養うこと。

○ 一般教育と専門教育との有機的関連性に配慮しつつ，4年間一貫した，調和のとれた，かつ，効果的なカリキュラム編成に取り組むための学内の仕組みを整える。

○ 一般教育の理念・目標は，大学の教育が専門的な知識の修得だけにとどまることのないように，学生に学問を通じ，広い知識を身に付けさせるとともに，ものを見る目や自主的・総合的に考える力を養うことにあり，入学してくる学生や諸科学の発展の現状から見て，このような理念・目標を実現することが一層必要。

現状では，改善・工夫の努力が行われているが，一般教育の理念・目標と授業の実際との間には，しばしば乖離が見られ，専門教育との関係でも，有機的な関連性が欠如している傾向も見受けられる。

このような一般教育の理念・目標が大学教育全体の中で実質的，効果的に実現されるよう，カリキュラム及び教育体制の改善が求められている。

○ 専門教育のカリキュラムについても，各専門分野の研究の進展，学際領域への展開，社会の多様化・複雑化等に対応して，内容の現代化，国際的な水準の維持，専攻領域の広がりが必要とされている。○ 設置基準の大綱化に伴い，大学の自主的団体や学会等によって，各大学が参考とし得るような学部教育のハンドブックや内容に幅を持たせた学則の準則等が提供されることが有益。

これらの指針は，教育内容面等については専門分野別に作成され，かつ，学問の進展等に応じ，不断に改訂されることが期待。

○ 各大学がカリキュラムを自由に設計し得るようになるためには，大学が順守すべきカリキュラムの枠組みとしての開設授業科目と卒業要件に関する基準を大幅に簡素化することが適当。

また，これを契機に，一般教育等の理念・目標を大学教育全体の中でどのように実現するかを各大学が真剣に検討し，取り組むことが期待される。

○ 大学設置基準上開設授業科目の科目区分を整理することについて，これにより一般教育等を軽視する大学が出てくるのではないかと危惧する向きもある。本審議会としては，一般教育等の理念・目標は極めて重要であるとの認識に立ち，それぞれの大学において，授業科目の枠組みにこだわることなく，この理念・目標の実現のための真摯な努力・工夫がなされることを期待するとともに，この点についての大学人の見識を信ずる。

○ 大学のカリキュラムの枠組みに関する大学設置基準の大綱化に伴い，今後，各大学において，一般教育と専門教育との有機的関連性に配慮しつつ，4年間一貫した，調和のとれた，かつ，効果的なカリキュラム編成に取り組むための学内の仕組みを整えるとともに，常にカリキュラムの点検を行い，その現代化に努めるなど改善への努力を行うよう，自己点検・評価の実施体制を確立することが重要。

○ 大学教育の量的拡大に伴い，学生の教育の必要上，専攻分野を超えた多様なカリキュラムの設定や幅の広い教育という要請がある。その一方で，学部教育において，専攻分野の学問的基本をしっかりと教えることも必要。

○ 授業科目区分の整理等の大学設置基準の大綱化により，4年間を通じての一貫したカリキュラムの編成，一般教育等担当教員と専門教育担当教員の固定化の解消等が期待されるが，これに伴い，各大学において，教養部の改組転換を含め，一般教育の実施組織の在り方について，再検討が行われることが望ましい。また，文部省においても，このような趣旨に沿った改革の具体化を積極的に支援することが望ましい。

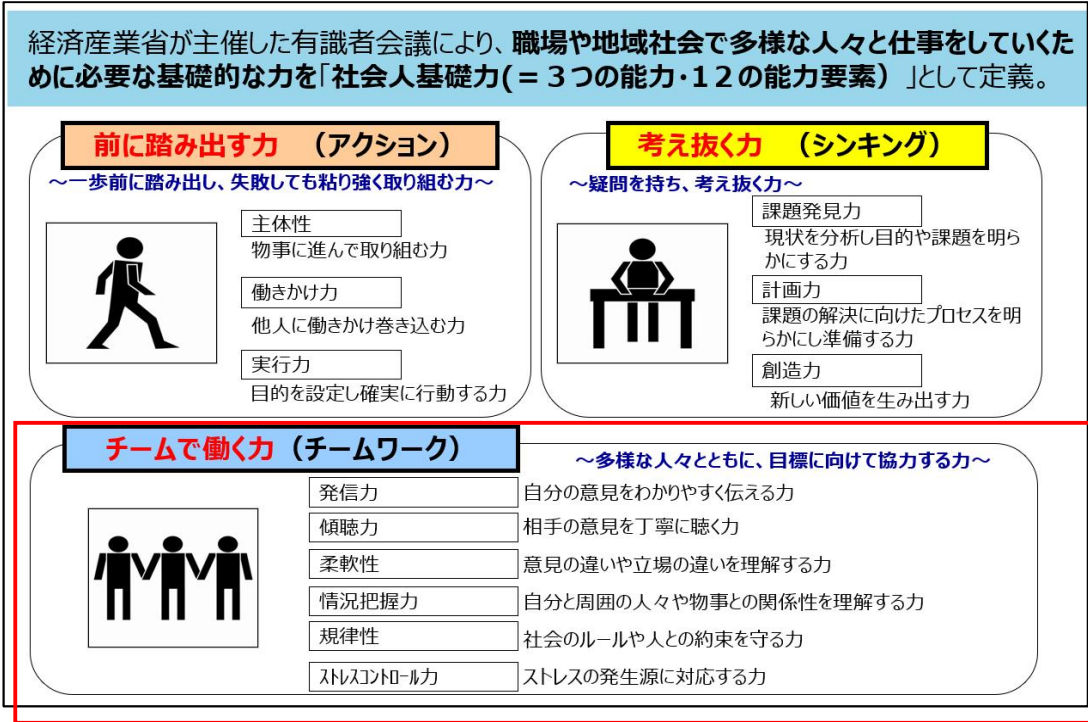
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/gijiroku/06101201/002/001.htm

【資料3】 学士力（文部科学省）

参考資料9 各専攻分野を通じて培う「学士力」－学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針－

趣旨
分野横断的に我が国の学士課程教育が共通して目指す「学習成果」についての参考指針として示したものである。個々の大学における学位授与の方針等の作成や分野別の質保証の枠組み作りを促進・支援することを目的とする。
1. 知識・理解
専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。 (1) 多文化・異文化に関する知識の理解 (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
2. 汎用的技能
知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1) コミュニケーション・スキル 日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。 (2) 数量的スキル 自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。 (3) 情報リテラシー ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。 (4) 論理的思考力 情報や知識を批判的・論理的に分析し、表現できる。 (5) 問題解決力 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
3. 態度・志向性
(1) 自己管理能力 自ら自律して行動できる。 (2) チームワーク、リーダーシップ 他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。 (3) 倫理観 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 (4) 市民としての社会的責任 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。 (5) 生涯学習力 卒業後も自律・自立して学習できる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力
これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、その課題を解決する能力 ※「学士課程教育の構築に向けて」(審議のまとめ)より抜粋
お問合せ先
科学技術・学術政策局基盤政策課

【資料4】 社会人基礎力（経済産業省）



【資料5】産学官によるグローバル人材の育成のための戦略
(平成23年4月28日 産学連携によるグローバル人材育成推進会議)

産学官によるグローバル人材の育成のための戦略

1. 現状と課題

世界では、政治・経済をはじめ様々な分野でグローバル化が進み、加速度的に進展している。人間が作り上げた技術やシステムにより、ヒト、モノ、カネが国を越えて一層流動する時代を迎える中、地球規模で物事をとらえ、地球上のあらゆる人びとと協力し、地球規模の平和と幸福を追求することが不可欠となっている。

教育は、人が社会の中でよりよく生き、自己実現を図るためのものであるとともに、社会において、その人材が活躍し、その力が最大限発揮されるためのものである。このため、時代の流れとともに変化する社会に合わせ、教育自体も進化したものとなる必要がある。現代というグローバル社会においてはグローバル化がより進展する社会を見越し、日本人がグローバルに対応できる力を持つグローバル人材になることが求められている。

グローバル人材とは、世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間であり、このような人材を育てるための教育が一層必要となっている。

しかしながら、近年、海外留学する日本人学生が減っていること、海外勤務を望まない若手社員が増えていることなどを理由として、日本の若者のいわゆる「内向き志向」が問題視されるようになってきている。実際、日本に留学する外国人留学生の数が増加する一方、外国に留学する日本人学生は減少しており、また、アメリカにおける外国人留学生の国際比較では、インドや中国の留学生が著しく増加する一方、日本人留学生は2000年以降年々減少してきている。更に、海外勤務を希望しない若手社員が2001年度に三割程度だったが、2010年度には五割程度まで増加しているという調査結果もある。しかし「内向き志向」と言っても、それは必ずしも若者の志向のみに起因するものではなく、例えば留学に要する費用の確保が難しくなっていること、早期化・長期化する就職活動が学生の留学に対する意欲と機会を失わせていることなど、留学に伴う様々なリスクに起因するものも少なくない。日本の若者の興味や関心を海外に向けさせる工夫とともに、「留学したいが留学できない」という状況を生み出している諸要因を取り除くことが、グローバル人材の育成を必要とする日本社会の責務だと考える。

政府は、グローバル人材の育成と内なる国際化を進めるため、「留学生30万人計画」に基づき、優秀な外国人留学生の確保に取り組んでおり、留学生総数も現在では141,774名を数えるなど着実に進んでいる。しかしながら、外国人留学生を獲

【資料6】18歳人口予測（全体：全国：2024～2036年）

■POINT 1 <今後の18歳人口>

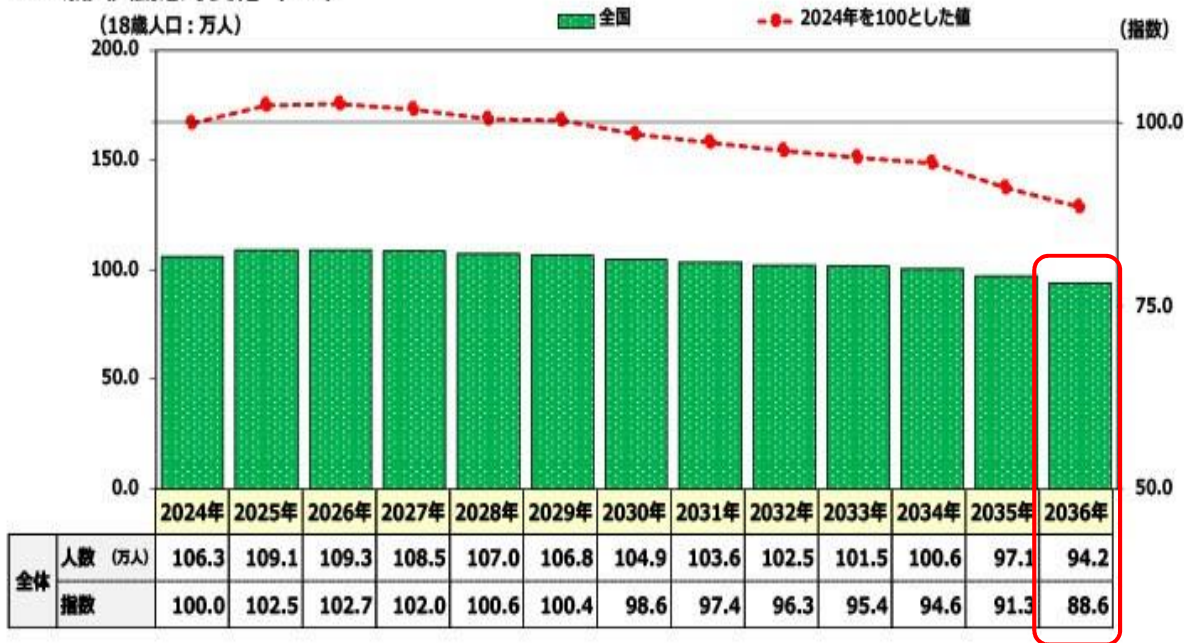
1 8歳人口は2026年までは増加するが、その後緩やかに減少フェーズへ。人口減少のスピードは地域で大きく異なる。地域の実情に合わせた大学（高等教育）の改革が重要に

2024年の18歳人口は106.3万人でした。25年は109.1万人、26年には109.3万人と少しずつ増加を続けます。それ以降は27年より減少に転じ、徐々に減少をし続けながら2035年には100万人を切ります。

2024年から2036年の18歳人口減少率を見ると全国では11.4%です。県別にみると増加傾向にあるのは、東京、沖縄のみ。減少率が11.4%を下回っている県は東京、沖縄を含めた13都府県のみです。一方で減少率が11.4%を上回っている県は34道府県あり、多くの県はより速いペースで減少していきます。

大学、短大、専門学校にとっては、人口が横ばいの今後5年程度が、将来の人口減少フェーズに向けた改革を進める重要な期間となります。その上で、上記の通り都道府県ごとに状況が違うことを考慮すると、地域の実情に合致した形での改革が必要になってくるでしょう。

■18歳人口動態の変化（P.4）

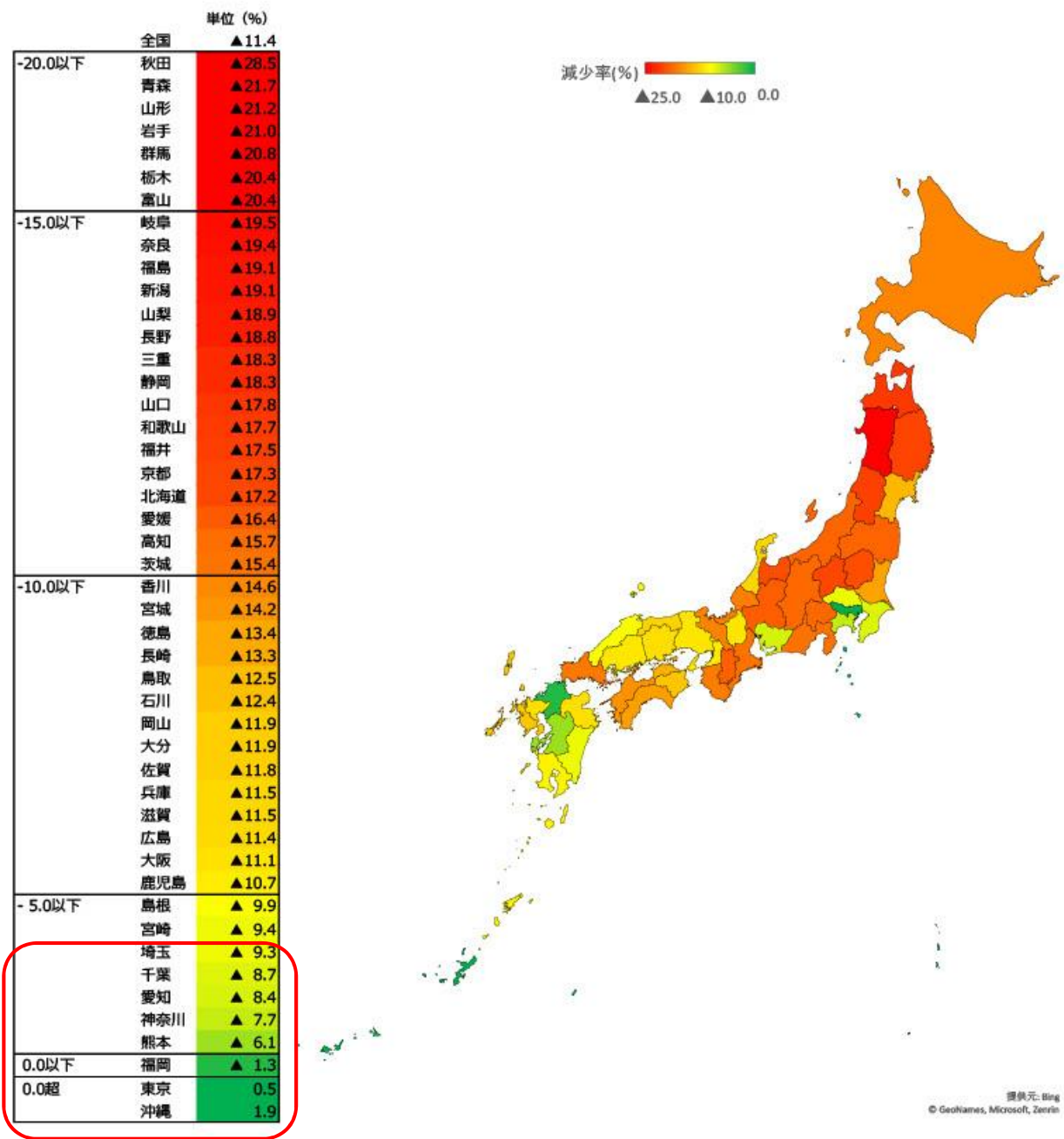


（出典：リクルート進学総研マーケットリポート2024）

【資料 7】 18歳人口予測（全体：都道府県別：2024～2036年）

18歳人口予測（全体：都道府県別：2024～2036年）

■東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
東京・沖縄の2都県のみ増加する見込み



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

（出典：リクルート進学総研マーケットリポート2024）

【資料 8】白百合女子大学（全体）の出身高校の所在地別入学者数

	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	151人	46.04%
2	神奈川県	33人	10.06%
3	埼玉県	27人	8.23%
4	千葉県	23人	7.01%
5	茨城県	14人	4.27%
	全 体	328人	100.00%

71.34%

※ 2024年度入試

【資料 9】大妻女子大学（全体）の出身高校の所在地別入学者数

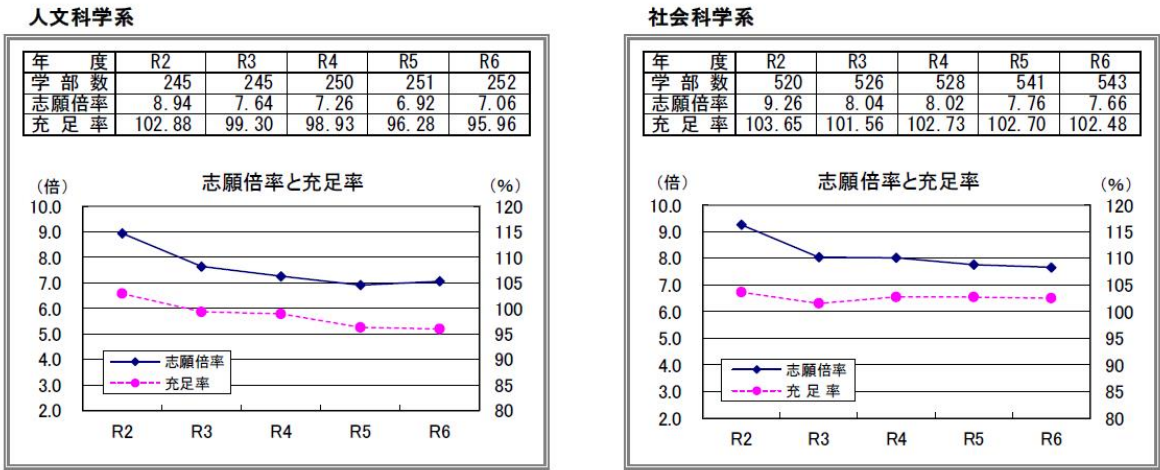
	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	517人	31.99%
2	千葉県	318人	19.68%
3	埼玉県	273人	16.89%
4	神奈川県	194人	12.00%
5	茨城県	83人	5.14%
	全 体	1,616人	100.00%

80.57%

※ 2024年度5月1日現在

https://www.otsuma.ac.jp/about/basic/basic_data/students/#target03

【資料10】学部系統別の動向過去5ヵ年の推移（大学）



令和 6（2024）年度私立大学・短期大学等入学志願動向
日本私立学校振興・共済事業団

入試最前線2022(3)

コロナ禍で就職見すえ学部選択

2022/1/12 07:00

✕ ポスト

✕ 反応

f

B!

🔗

🖨

👤 木ノ下 めぐみ



コロナ禍で閑散とする空港。留学やインバウンドの縮小が受験生の国際関係の学部離れにもつながった＝令和3年4月、大阪府泉佐野市の関西国際空港（沢野貴信撮影）

新型コロナウイルスの感染拡大は受験生の進路にも大きな影響を与えている。就職に直結しやすいイメージが強い学部には人が集まる一方、苦戦を強いられている学部もある。なかでも、とりわけ志願者が減っているのは、国際関係の学部だ。

しかし、国際関係の学部を目指す受験生にとっては「狙い目」ともいえる。受験業界の関係者からは「志望大学の2、3ランクアップも期待できる」という声も上がっている。

大手進学塾「河合塾」が行った全統共通テスト模試での志望動向を見ると、特に減少が大きく目立ったのは外国語や地域・国際といった学部で、減少幅が大きかった。

いずれもこれまでは人気の高かった学部だが、コロナ下で特色である海外留学の制限や、インバウンド（訪日外国人客）の縮小による就職活動の先行き不安などがあるという。

ただ、コロナ禍もやがては収束する。河合塾教育研究開発本部の近藤治・主席研究員は「今の受験生が就職する頃、コロナが収束していれば、リバウンドでインバウンドの業界は引く手あまたになっているかもしれない」と話す。

「本気で行きたいと思う学部ならコロナを理由に諦めるのはもったいない。むしろ今をチャンスだととらえてほしい。1ランク上どころか2、3ランクアップも目指せる傾向にあります」

文系学部は全体的に人気は低調だが、法学系学部は人気を保っている。

公務員採用や法律という専門分野を生かした採用など就職のイメージが強い。さらに前述の国際・外国語学部を志望していた受験者の流入などもあるとみる。「国際系学部は難関大に多く、学部そのものの難易度も高いことが多いが、今更理系に変わることもできないので、法学部が選択肢に入ってくる」という。

コロナ禍で先行きが不透明だからこそ、堅実に。昨年度に続き、就職を意識した学部選びの傾向が今年度も続きそうだ。（木ノ下めぐみ）

2022年1月12日 産経ニュース

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	27,533人	35.78%
2	神奈川県	11,229人	14.59%
3	埼玉県	9,033人	11.74%
4	千葉県	7,086人	9.21%
5	茨城県	2,860人	3.72%
	全 体	76,957人	100.00%

※女子大学のため 出身高校の所在地
県別の入学者数の構成比（上位 5 都
道府県）は女子のみで集計

71.31%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	東京都	103.70%	103.57%	102.88%

(学部所在地)

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	人文科学系学部（大学）	98.93%	96.28%	95.96%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：文学部国語国文学科

別紙２－１

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	15人	15人	15人	30人	30人	21人
	延べ人数	志願者数	19人	15人	16人	24人	20人
		受験者数	19人	15人	16人	25人	18人
		合格者数	15人	15人	16人	25人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	19人	15人	16人	24人	20人
		受験者数	19人	15人	16人	25人	18人
		合格者数	15人	15人	16人	25人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	15人	15人	15人	15人	22人	16人
学校推薦型選抜	募集人数	25人	25人	25人	20人	20人	23人
	延べ人数	志願者数	35人	26人	21人	17人	22人
		受験者数	35人	26人	21人	17人	22人
		合格者数	33人	26人	21人	17人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	35人	26人	21人	17人	22
		受験者数	35人	26人	21人	17人	22
		合格者数	33人	26人	21人	17人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	33人	26人	21人	17人	11人	21.6
一般選抜	募集人数	35人	35人	35人	22人	22人	29.8
	延べ人数	志願者数	166人	131人	109人	103人	119.2
		受験者数	141人	115人	91人	90人	103
		合格者数	110人	101人	83人	82人	89.2
		うち追加合格者数	10人	6人	11人	9人	7.8
		辞退者数	10人	8人	4人	4人	6
	実人数	志願者数	145人	109人	57人	65人	87.6
		受験者数	123人	95人	47人	59人	76.2
		合格者数	95人	84人	42人	58人	66.8
		うち追加合格者数	10人	5人	2人	7人	5.4
		辞退者数	9人	7人	1人	4人	4.8
	入学者数	38人	33人	11人	13人	14人	21.8
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	7人	7人	5.8
	延べ人数	志願者数	156人	151人	127人	126人	135.6
		受験者数	156人	148人	126人	126人	134.8
		合格者数	76人	90人	99人	105人	95
		うち追加合格者数	0人	4人	10人	11人	5
		辞退者数	3人	2人	1人	2人	2
	実人数	志願者数	122人	125人	108人	103人	110.8
		受験者数	122人	123人	107人	103人	110.2
		合格者数	62人	76人	89人	89人	80
		うち追加合格者数	0人	3人	8人	9人	4
		辞退者数	2人	1人	1人	2人	1.6
	入学者数	2人	5人	8人	4人	22人	8.2
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
	延べ人数	志願者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		受験者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		合格者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		受験者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		合格者数	0人	1人	1人	1人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	376人	324人	274人	271人	297人
		受験者数	351人	305人	255人	250人	279人
		合格者数	234人	233人	219人	221人	224人
		うち追加合格者数	10人	10人	21人	20人	13人
		辞退者数	13人	10人	5人	6人	8人
	実人数	志願者数	321人	276人	203人	210人	241人
		受験者数	299人	260人	192人	196人	227人
		合格者数	205人	202人	168人	181人	186人
		うち追加合格者数	10人	8人	10人	16人	9人
		辞退者数	11人	8人	2人	6人	7人
	入学者数	88人	80人	55人	49人	69人	68人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	1.10	1.00	0.69	0.61	0.86	0.85
歩 留 率	0.38	0.34	0.25	0.22	0.33	0.30

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：文学部フランス語フランス文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	30人	30人	24人	
	延べ人数	志願者数	22人	14人	17人	13人	12人	16人
		受験者数	21人	13人	17人	11人	9人	14人
		合格者数	16人	12人	17人	11人	9人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	22人	14人	17人	13人	12人	16人
		受験者数	21人	13人	17人	11人	9人	14人
		合格者数	16人	12人	17人	11人	9人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	14人	12人	17人	9人	9人	12人	
学校推薦型選抜	募集人数	30人	30人	30人	20人	20人	26人	
	延べ人数	志願者数	39人	30人	19人	13人	3人	21人
		受験者数	38人	30人	19人	13人	3人	21人
		合格者数	37人	29人	19人	13人	3人	20.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	39人	30人	19人	13人	3人	20.8
		受験者数	38人	30人	19人	13人	3人	20.6
		合格者数	37人	29人	19人	13人	3人	20.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	36人	29人	19人	13人	3人	20	
一般選抜	募集人数	25人	25人	25人	22人	22人	23.8	
	延べ人数	志願者数	80人	48人	55人	48人	55人	57.2
		受験者数	70人	39人	45人	38人	48人	48
		合格者数	62人	36人	43人	38人	46人	45
		うち追加合格者数	4人	3人	0人	0人	0人	1.4
		辞退者数	6人	5人	2人	3人	0人	3.2
	実人数	志願者数	55人	39人	27人	21人	16人	31.6
		受験者数	46人	32人	24人	18人	15人	27
		合格者数	41人	31人	24人	18人	15人	25.8
		うち追加合格者数	2人	2人	0人	0人	0人	0.8
		辞退者数	6人	4人	1人	3人	0人	2.8
	入学者数	25人	10人	12人	8人	9人	12.8	
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	7人	7人	5.8	
	延べ人数	志願者数	90人	96人	62人	58人	31人	67.4
		受験者数	89人	95人	60人	58人	31人	66.6
		合格者数	50人	81人	46人	48人	27人	50.4
		うち追加合格者数	3人	0人	5人	6人	0人	2.8
		辞退者数	1人	2人	1人	2人	1人	1.4
	実人数	志願者数	69人	72人	48人	46人	22人	51.4
		受験者数	68人	72人	46人	46人	22人	50.8
		合格者数	41人	63人	35人	41人	20人	40
		うち追加合格者数	2人	0人	4人	6人	0人	2.4
		辞退者数	0人	2人	1人	2人	1人	1.2
	入学者数	3人	0人	5人	4人	5人	3.4	
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4	
	延べ人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		受験者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		合格者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		受験者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		合格者数	1人	1人	0人	1人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	1人	0人	0人	0人	0.4	
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人	
	延べ人数	志願者数	232人	189人	153人	133人	101人	162人
		受験者数	219人	178人	141人	121人	91人	150人
		合格者数	166人	159人	125人	111人	85人	129人
		うち追加合格者数	7人	3人	5人	6人	0人	4人
		辞退者数	7人	7人	3人	6人	1人	5人
	実人数	志願者数	186人	156人	111人	94人	53人	120人
		受験者数	174人	148人	106人	89人	49人	113人
		合格者数	136人	136人	95人	84人	47人	100人
		うち追加合格者数	4人	2人	4人	6人	0人	3人
		辞退者数	6人	6人	2人	6人	1人	4人
	入学者数	79人	52人	53人	34人	26人	49人	

3. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入学定員充足率	0.99	0.65	0.66	0.43	0.33	0.61
歩留率	0.48	0.33	0.42	0.31	0.31	0.37

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：文学部英語英文学科

別紙２－３

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	40人	30人	26人
	延べ人数	志願者数	34人	19人	11人	22人	22人
		受験者数	33人	18人	11人	19人	19人
		合格者数	27人	15人	10人	18人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	1人
	実人数	志願者数	34人	19人	11人	22人	22人
		受験者数	33人	18人	11人	19人	19人
		合格者数	27人	15人	10人	18人	17人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	1人
	入学者数	27人	15人	10人	15人	12人	16人
学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	40人	30人	20人	34人
	延べ人数	志願者数	51人	22人	27人	15人	26人
		受験者数	51人	22人	27人	15人	26人
		合格者数	51人	20人	27人	15人	25.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	51人	22人	27人	15人	25.6
		受験者数	51人	22人	27人	15人	25.6
		合格者数	51人	20人	27人	15人	25.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	51人	20人	27人	15人	13人	25.2
一般選抜	募集人数	50人	50人	50人	42人	22人	42.8
	延べ人数	志願者数	144人	72人	85人	114人	103.6
		受験者数	125人	63人	68人	96人	89.8
		合格者数	87人	54人	65人	89人	76.4
		うち追加合格者数	15人	3人	11人	14人	11.2
		辞退者数	10人	7人	3人	7人	5.8
	実人数	志願者数	119人	65人	50人	67人	73.4
		受験者数	103人	57人	43人	59人	65
		合格者数	73人	49人	41人	56人	55.4
		うち追加合格者数	12人	3人	1人	5人	5.6
		辞退者数	9人	7人	2人	4人	4.6
	入学者数	23人	8人	14人	15人	19人	15.8
共通テスト利用入試	募集人数	10人	10人	10人	7人	7人	8.8
	延べ人数	志願者数	198人	159人	106人	106人	129.2
		受験者数	198人	158人	106人	105人	128.8
		合格者数	120人	116人	91人	89人	96.4
		うち追加合格者数	5人	3人	9人	9人	6.2
		辞退者数	4人	3人	2人	1人	2.2
	実人数	志願者数	161人	120人	85人	93人	104
		受験者数	161人	120人	85人	92人	103.8
		合格者数	102人	91人	75人	84人	80.8
		うち追加合格者数	4人	2人	7人	9人	5
		辞退者数	4人	3人	2人	1人	2.2
	入学者数	5人	7人	4人	7人	9人	6.4
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
	延べ人数	志願者数	0人	1人	1人	0人	0.4
		受験者数	0人	1人	1人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0.2
	実人数	志願者数	0人	1人	1人	0人	0.4
		受験者数	0人	1人	1人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	1人	0人	0.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0.2
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
合計	募集人数	120人	120人	120人	120人	80人	112人
	延べ人数	志願者数	427人	273人	230人	257人	281人
		受験者数	407人	262人	213人	235人	264人
		合格者数	285人	205人	194人	211人	215人
		うち追加合格者数	20人	6人	20人	23人	17人
		辞退者数	14人	10人	6人	10人	9人
	実人数	志願者数	365人	227人	174人	197人	225人
		受験者数	348人	218人	167人	185人	214人
		合格者数	253人	175人	154人	173人	178人
		うち追加合格者数	16人	5人	8人	14人	11人
		辞退者数	13人	10人	5人	7人	8人
	入学者数	106人	50人	55人	52人	53人	63人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	120人	120人	120人	120人	80人	112
入 学 定 員 充 足 率	0.88	0.42	0.46	0.43	0.66	0.57
歩 留 率	0.37	0.24	0.28	0.25	0.29	0.29

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：人間総合学部児童文化学科

別紙２－４

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	20人	20人	20人	25人	25人	22人
	延べ人数	志願者数	38人	39人	28人	46人	38人
		受験者数	38人	39人	28人	38人	35人
		合格者数	30人	28人	28人	36人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	38人	39人	28人	46人	38人
		受験者数	38人	39人	28人	38人	35人
		合格者数	30人	28人	28人	36人	30人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	30人	28人	27人	34人	28人	29人
学校推薦型選抜	募集人数	15人	15人	15人	15人	15人	15人
	延べ人数	志願者数	19人	33人	19人	6人	19人
		受験者数	18人	33人	19人	6人	18人
		合格者数	18人	29人	19人	6人	17.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	19人	33人	19人	6人	18.6
		受験者数	18人	33人	19人	6人	18.4
		合格者数	18人	29人	19人	6人	17.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	18人	29人	19人	6人	16人	17.6
一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	15人	15人	18
	延べ人数	志願者数	100人	46人	63人	60人	63.2
		受験者数	92人	39人	58人	51人	55.2
		合格者数	46人	26人	53人	48人	40.6
		うち追加合格者数	2人	0人	3人	3人	1.6
		辞退者数	2人	4人	2人	0人	1.8
	実人数	志願者数	71人	28人	18人	23人	30.2
		受験者数	63人	23人	16人	22人	27
		合格者数	35人	17人	18人	21人	20.4
		うち追加合格者数	2人	0人	1人	0人	0.6
		辞退者数	1人	4人	1人	0人	1.2
	入学者数	13人	9人	16人	7人	6人	10.2
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	4人	4人	4.6
	延べ人数	志願者数	124人	53人	46人	31人	55
		受験者数	124人	52人	46人	30人	54.6
		合格者数	39人	29人	20人	23人	26.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0.4
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	81人	32人	28人	17人	34.2
		受験者数	81人	32人	28人	16人	34
		合格者数	25人	22人	14人	15人	17.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0.2
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0.2
	入学者数	0人	0人	1人	3人	1人	1
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
	延べ人数	志願者数	1人	4人	0人	0人	1
		受験者数	1人	3人	0人	0人	0.8
		合格者数	1人	1人	0人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	4人	0人	0人	1
		受験者数	1人	3人	0人	0人	0.8
		合格者数	1人	1人	0人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	1人	0人	0人	0人	0.4
合計	募集人数	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	282人	175人	156人	143人	176人
		受験者数	273人	166人	151人	125人	164人
		合格者数	134人	113人	120人	113人	115人
		うち追加合格者数	2人	0人	3人	3人	2人
		辞退者数	3人	4人	2人	1人	2人
	実人数	志願者数	210人	136人	93人	92人	122人
		受験者数	201人	130人	91人	82人	115人
		合格者数	109人	97人	79人	78人	86人
		うち追加合格者数	2人	0人	1人	0人	1人
		辞退者数	2人	4人	1人	1人	2人
	入学者数	62人	67人	63人	50人	51人	59人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	60人	60人	60人	60人	60人	60
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.12	1.05	0.83	0.85	0.98
歩 留 率	0.46	0.59	0.53	0.44	0.53	0.51

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
R3～R5実施の3月入試または共通テスト利用選抜（後期）において、人間総合学部は面接試験があるため、一般選抜に計上

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：人間総合学部発達心理学科

別紙２－５

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	10人	10人	10人	18人	18人	13人
	延べ人数	志願者数	26人	16人	29人	46人	34人
		受験者数	26人	16人	28人	35人	29人
		合格者数	16人	9人	23人	29人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	26人	16人	29人	46人	34人
		受験者数	26人	16人	28人	35人	29人
		合格者数	16人	9人	23人	29人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人
	入学者数	16人	8人	23人	26人	30人	21人
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	12人	12人	17人
	延べ人数	志願者数	28人	23人	19人	19人	21人
		受験者数	27人	23人	19人	19人	21人
		合格者数	25人	22人	19人	19人	20.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	28人	23人	19人	19人	21.2
		受験者数	27人	23人	19人	19人	21
		合格者数	25人	22人	19人	19人	20.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	25人	22人	19人	19人	17人	20.4
一般選抜	募集人数	25人	25人	25人	24人	24人	24.6
	延べ人数	志願者数	115人	102人	103人	104人	110.6
		受験者数	109人	87人	86人	88人	97.6
		合格者数	58人	71人	69人	80人	71.8
		うち追加合格者数	9人	6人	9人	11人	7
		辞退者数	4人	9人	2人	6人	5.2
	実人数	志願者数	98人	78人	57人	58人	72.8
		受験者数	93人	66人	46人	53人	65.8
		合格者数	52人	57人	42人	48人	50.2
		うち追加合格者数	8人	6人	6人	6人	5.2
		辞退者数	2人	7人	1人	2人	3.2
	入学者数	26人	25人	24人	15人	23人	22.6
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5
	延べ人数	志願者数	118人	75人	82人	70人	86.2
		受験者数	117人	74人	81人	69人	85.4
		合格者数	34人	45人	34人	56人	43.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	1人	1人	1人	1.4
	実人数	志願者数	89人	59人	63人	57人	65.4
		受験者数	88人	59人	63人	56人	65
		合格者数	27人	36人	26人	46人	34.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	1人	0人	1人	1.2
	入学者数	2人	1人	4人	3人	8人	3.6
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
	延べ人数	志願者数	3人	2人	0人	1人	2
		受験者数	3人	1人	0人	1人	1.8
		合格者数	2人	0人	0人	1人	1.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	3人	2人	0人	1人	2
		受験者数	3人	1人	0人	1人	1.8
		合格者数	2人	0人	0人	1人	1.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	0人	0人	1人	4人	1.2
合計	募集人数	60人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	志願者数	290人	218人	233人	240人	254人
		受験者数	282人	201人	214人	212人	235人
		合格者数	135人	147人	145人	185人	160人
		うち追加合格者数	9人	6人	9人	11人	7人
		辞退者数	6人	11人	3人	7人	8人
	実人数	志願者数	244人	178人	168人	181人	195人
		受験者数	237人	165人	156人	164人	182人
		合格者数	122人	124人	110人	143人	129人
		うち追加合格者数	8人	6人	6人	6人	5人
		辞退者数	4人	9人	1人	3人	6人
	入学者数	70人	56人	70人	64人	82人	68人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60
入学定員充足率	1.17	0.93	1.17	1.07	1.37	1.14
歩留率	0.52	0.38	0.48	0.35	0.43	0.43

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
R3～R5実施の3月入試または共通テスト利用選抜（後期）において、人間総合学部は面接試験があるため、一般選抜に計上

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：人間総合学部初等教育学科

別紙２－６

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	15人	15人	15人	30人	30人	21人
	延べ人数	志願者数	22人	19人	27人	38人	29人
		受験者数	20人	18人	27人	29人	25人
		合格者数	15人	16人	24人	26人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	3人	2人
	実人数	志願者数	22人	19人	27人	38人	29人
		受験者数	20人	18人	27人	29人	25人
		合格者数	15人	16人	24人	26人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	3人	2人
	入学者数	14人	16人	24人	21人	21人	19人
学校推薦型選抜	募集人数	30人	30人	30人	24人	24人	28人
	延べ人数	志願者数	44人	28人	34人	16人	27人
		受験者数	44人	28人	34人	16人	27人
		合格者数	42人	28人	34人	16人	26.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	44人	28人	34人	16人	27.2
		受験者数	44人	28人	34人	16人	27.2
		合格者数	42人	28人	34人	16人	26.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	42人	28人	34人	16人	14人	26.8
一般選抜	募集人数	25人	25人	25人	15人	15人	21
	延べ人数	志願者数	85人	62人	65人	68人	66.8
		受験者数	73人	48人	50人	60人	54.8
		合格者数	44人	43人	41人	53人	43.8
		うち追加合格者数	7人	0人	1人	0人	2.2
		辞退者数	5人	6人	2人	2人	3.4
	実人数	志願者数	62人	52人	38人	42人	44
		受験者数	52人	42人	30人	39人	36.8
		合格者数	36人	37人	25人	38人	31.2
		うち追加合格者数	4人	0人	1人	0人	1
		辞退者数	5人	6人	2人	1人	2.8
	入学者数	13人	10人	8人	8人	9人	9.6
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5
	延べ人数	志願者数	122人	100人	55人	64人	76.6
		受験者数	122人	98人	55人	64人	76.2
		合格者数	53人	64人	41人	56人	50.6
		うち追加合格者数	2人	2人	0人	2人	1.2
		辞退者数	4人	1人	2人	2人	1.8
	実人数	志願者数	95人	79人	48人	51人	61.6
		受験者数	95人	77人	48人	51人	61.2
		合格者数	46人	51人	37人	48人	43
		うち追加合格者数	2人	1人	0人	2人	1
		辞退者数	3人	0人	2人	2人	1.4
	入学者数	3人	4人	3人	1人	3人	2.8
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	1人	1人	0.4
	延べ人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	0.8
		受験者数	1人	1人	0人	0人	0.6
		合格者数	1人	1人	0人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	1人	1人	0人	1人	0.8
		受験者数	1人	1人	0人	0人	0.6
		合格者数	1人	1人	0人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0.2
	入学者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
合計	募集人数	75人	75人	75人	75人	75人	75人
	延べ人数	志願者数	274人	210人	181人	187人	200人
		受験者数	260人	193人	166人	169人	184人
		合格者数	155人	152人	140人	151人	143人
		うち追加合格者数	9人	2人	1人	2人	3人
		辞退者数	11人	7人	4人	7人	7人
	実人数	志願者数	224人	179人	147人	148人	162人
		受験者数	212人	166人	139人	135人	151人
		合格者数	140人	133人	120人	128人	123人
		うち追加合格者数	6人	1人	1人	2人	2人
		辞退者数	10人	6人	4人	6人	6人
	入学者数	72人	59人	69人	46人	47人	59人

３．入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平均
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75
入学定員充足率	0.96	0.79	0.92	0.61	0.63	0.78
歩留率	0.46	0.39	0.49	0.30	0.39	0.41

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
R3～R5実施の3月入試または共通テスト利用選抜（後期）において、人間総合学部は面接試験があるため、一般選抜に計上

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：白百合女子大学のオープンキャンパス

	R6年度入試	R7年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1129人	1131人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や模擬授業、在学生とのトークコーナー、キャンパスツアーを実施。 R6年度入試対象(R5開催)：計7回開催(3/18、6/18、7/16、8/6、8/26、10/22、12/3) R7年度入試対象(R6開催)：計8回開催(3/20、6/15、7/20、8/4、8/24、9/14、10/20、12/22) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学全体の参加者の39.0%が受験し、29.8%が入学している(R6,7平均)。 大学全体で、入学者数増の目標人数を65名に定める(多めの入学者数増を設定することで、入学定員を適正に管理することが出来る)。 従ってR7年度の参加者総数実績(1,131名)に各学科の増加目標人数(219名(≒65名×100÷29.8%))を足した1,350名以上の参加者を確保する。
うち受験対象者数(b)	625人	645人	
うち受験者数(c)	256人	239人	
うち入学者数(d)	194人	185人	
(受験率 c/b)	41.0%	37.1%	
(入学率 d/b)	31.0%	28.7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：白百合女子大学の大学案内の配布(郵送)

	R6年度入試	R7年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	13804人	13500人	①取組概要 受験対象者を対象として大学案内等資料を発送配布。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 大学全体大学案内など資料発送者のうち6.9%が受験し、2.8%が入学している(R6,7平均)。 大学全体で、入学者数増の目標人数を65名に定める(多めの入学者数増を設定することで、入学定員を適正に管理することが出来る)。 従ってR7年度の参加者総数実績(3,472名)に各学科の増加目標人数(2,325名(≒65名×100÷2.8%))を足した5,797名以上への大学案内などの資料配布(郵送)を確保する。
うち受験対象者数(b)	3868人	3472人	
うち受験者数(c)	286人	218人	
うち入学者数(d)	104人	101人	
(受験率 c/b)	7.4%	6.3%	
(入学率 d/b)	2.7%	2.9%	

教員名簿

学長又は校長の氏名等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	イカリ トモカズ 猪狩 友一 ＜令和6年6月＞		修士（文学）		白百合女子大学 学長 (令和6. 6～令和9. 3)